

令和8年（2026年）8月3日 公表資料

令和8年（2026年）8月18日
8月定例教育委員会
報告事項イ

VOL.1



令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果の概要



滋賀県教育委員会事務局幼小中教育課

令和8年度全国学力・学習状況調査結果の概要について

1 実施概要

(1) 実施日 令和8年4月23日(木)

(2) 対象学年

小学校第6学年、義務教育学校前期課程第6学年、特別支援学校小学部第6学年
中学校第3学年、義務教育学校後期課程第3学年、特別支援学校中学部第3学年

(3) 実施教科

①教科に関する調査〔国語、算数・数学、英語〕

※中学校英語は、文部科学省 CBT システム (MEXCBT) によるオンライン方式 CBT (Computer Based Testing) で実施

②生活習慣や学習環境等に関する質問調査

・児童生徒に対する調査 (いずれも CBT システム (MEXCBT による回答)、学校に対する調査 (Web による回答))

(4) 実施校数 悉皆調査

	学校数	参加学校数	調査実施日に実施した学校数	後日に調査を実施した学校数
市町立小学校	216	216	216	0
義務教育学校 (前期課程)	2	2	2	0
特別支援学校 (小学部)	12	1	1	0
小学校合計	230	219	219	0
市町立中学校	93	93	82	11
義務教育学校 (後期課程)	2	2	2	0
県立中学校	3	3	3	0
特別支援学校 (中学部)	12	3	3	0
中学校合計	110	101	90	11
公立学校計	340	320	320	

2 教科に関する調査の結果の概要(公立)

○各教科における本県と全国の平均正答数と平均正答率(%)、平均IRTスコア*

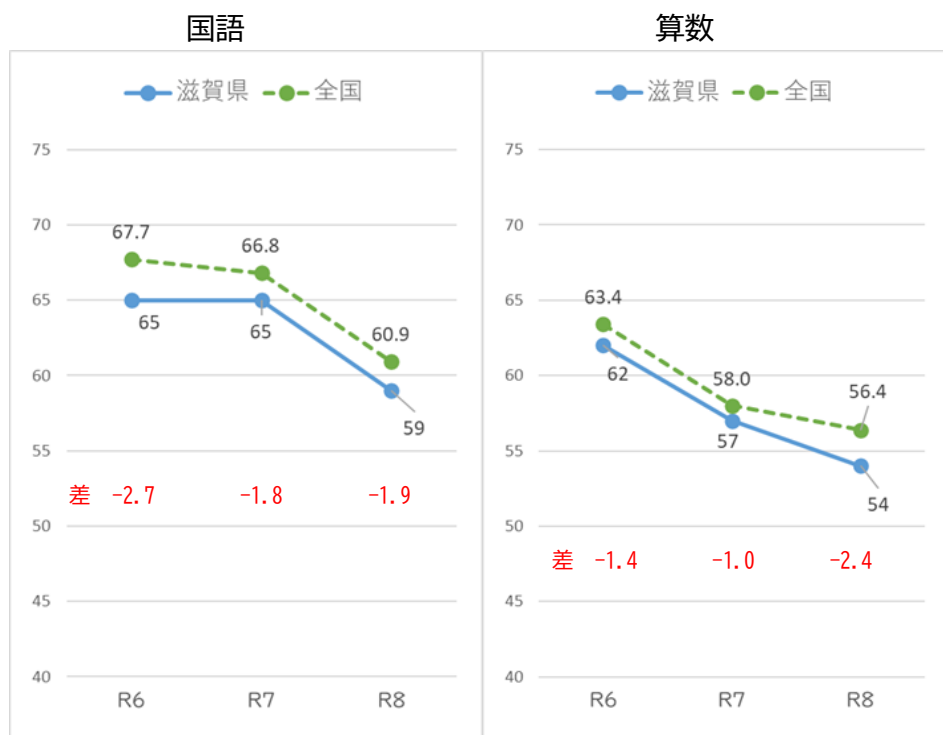
	教科	平均正答数/設問数			平均正答率 (%)		
				全国との差			全国との差
小学校	国語	本県	7.7/13	-0.2	本県	59	-1.9
		全国	7.9/13		全国	60.9	
	算数	本県	8.7/16	-0.3	本県	54	-2.4
		全国	9/16		全国	56.4	
中学校	国語	本県	9.4/15	-0.2	本県	62	-1.9
		全国	9.6/15		全国	63.9	
	数学	本県	9.1/16	0	本県	57	0
		全国	9.1/16		全国	57.0	
	英語3技能				平均IRTスコア*		全国との差
					本県	496	-3
					全国	499	

*IRTスコアについて

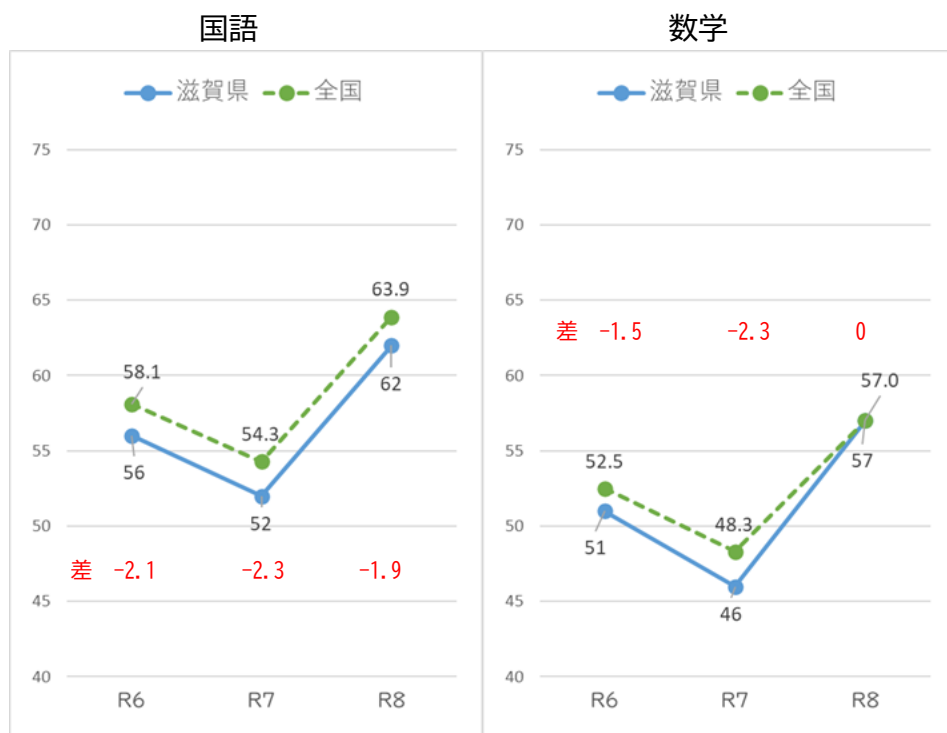
- ・IRT (Item Response Theory) とは「項目反応理論」と言い、一人一人の問題の正誤状況を活用し、調査に取り組んだ人の学力を測定する方法。
- ・IRTスコアとは、IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すもの。

○ 全国学力・学習状況調査の平均正答率の推移

【小学校】＜平均正答率の経年変化＞



【中学校】＜平均正答率の経年変化＞



英語

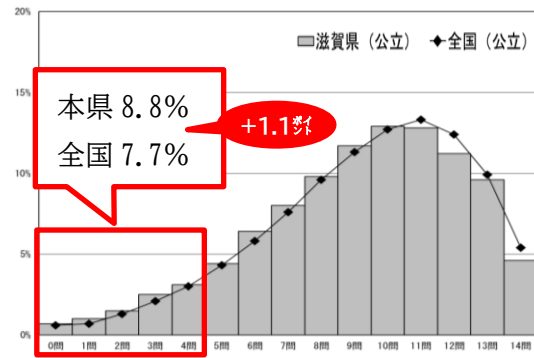
	令和5年度	令和8年度
	平均正答率	平均IRTスコア
本県	46	496
全国	45.6	499

※英語は3年に1回実施
(前回調査は令和5年度)

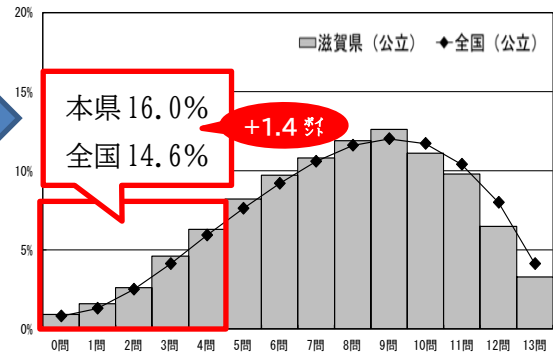
【国語】

小学校

◆令和7年度正答数分布のグラフ



◆令和8年度正答数分布のグラフ



○ 正答数分布のグラフに着目すると…

- ・正答数が0～4問の児童の割合が全国より1.4ポイント大きく、全国との差が昨年度から0.3ポイント広がった。

○ 良好な状況にある問題は…

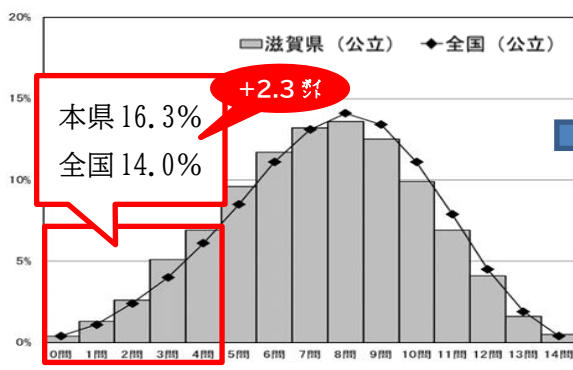
- ・漢字を文の中で正しく使えるかどうかをみる問題
「短い」(正答率80.3%、全国比+0.3ポイント) 「不思議」(正答率46.0%、全国比+0.8ポイント)
- ・文章全体の構成や展開を考えることができるかどうかをみる問題(正答率58.6%、全国比+0.7ポイント)

○ 顕著な課題が見られた問題は…

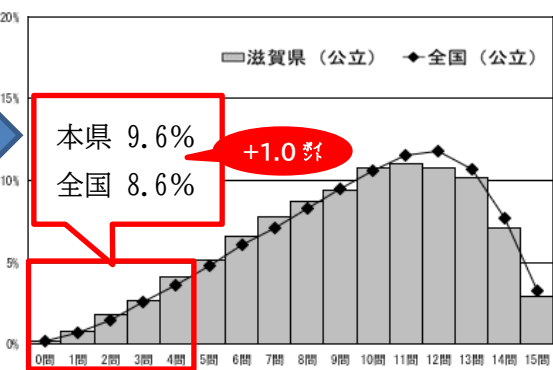
- ・集めた情報を基に自分が考えたことを書く記述式の問題
(正答率29.2%、全国比-4.3ポイント、無解答率5.1%)
「本の題名や本文の一部を引用するという条件を満たして書くこと」に課題
「引用した部分と自分の考えとの関係を明確にして書くこと」に課題

中学校

◆令和7年度正答数分布のグラフ



◆令和8年度正答数分布のグラフ



○ 正答数分布のグラフに着目すると…

- ・正答数が0～4問の生徒の割合が全国より1.0ポイント大きかったが、全国との差は昨年度から1.3ポイント改善された。

○ 良好な状況にある問題は…

- ・助動詞の働きを理解しているかどうかをみる問題(正答率84.6%、全国比+0.3ポイント)
- ・単語の識別を理解しているかどうかをみる問題(正答率71.4%、全国比+1.2ポイント)
- ・単語の活用を理解しているかどうかをみる問題(正答率85.8%、全国比+0.4ポイント)
- ・文脈に即して漢字を選んだり書いたりする問題(正答率39.9%、全国比+0.1ポイント)

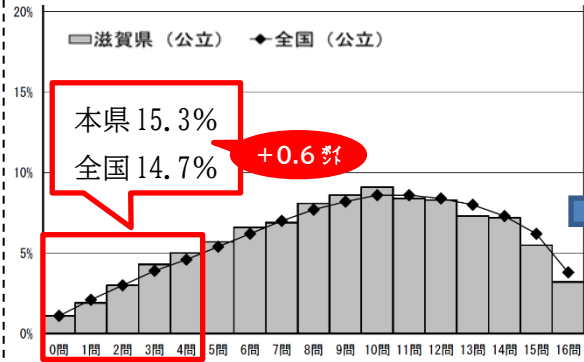
○ 顕著な課題が見られた問題は…

- ・文章を読んで自分の考えを書く記述式の問題(正答率33.3%、全国比-5.6ポイント、無解答率24.4%)
「表現の効果とその工夫について考えたことを書くこと」に課題
「文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること」に課題

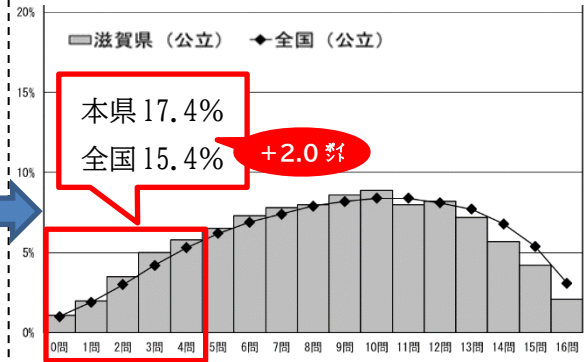
【算数・数学】

小学校

◆令和7年度正答数分布のグラフ



◆令和8年度正答数分布のグラフ



○ 正答数分布のグラフに着目すると…

- ・ 正答数が0～4問の児童の割合が全国より2.0ポイント大きく、全国との差が昨年度から1.4ポイント広がった。

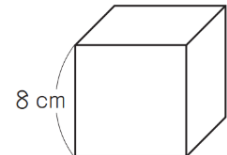
○ 良好な状況にある問題は…

- ・ 1、5、9の3枚のカードを当てはめてつくることができる最も大きい数を書く問題 (正答率94.3%、全国比-0.2ポイント)

○ 顕著な課題が見られた問題は…

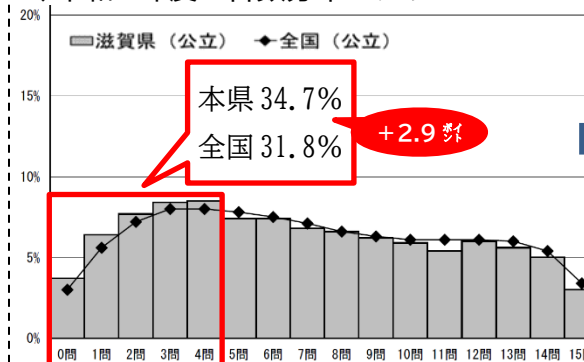
- ・ 立方体の体積を求める式を書く問題 (正答率67.3%、全国比-5.4ポイント)
基本的な概念の定着に課題

1辺が8cmの立方体の体積が何cm³かを求める式を書きましょう。(式のみ)

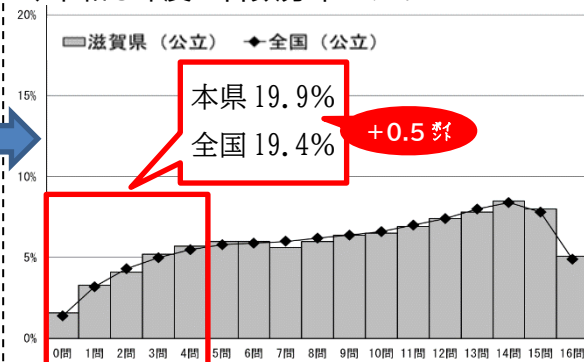


中学校

◆令和7年度正答数分布のグラフ



◆令和8年度正答数分布のグラフ



○ 正答数分布のグラフに着目すると…

- ・ 正答数が0～4問の生徒の割合が全国より0.5ポイント大きかったが、全国との差は昨年度から2.4ポイント改善された。
- ・ 正答数が13～16問の生徒の割合が全国より0.3ポイント大きい。

○ 良好な状況にある問題は…

- ・ 平行になるための条件を理解しているかどうかをみる問題 (正答率50.5%、全国比+1.4ポイント)
- ・ 反比例の表においてxの値に対応するyの値を求める問題 (正答率59.9%、全国比+4.6ポイント)
- ・ 条件を満たす確率を求める問題 (正答率61.8%、全国比+1.6ポイント)
- ・ 三角形の合同を基にして図形の性質を証明する問題 (正答率48.6%、全国比+2.5ポイント)
- ・ 度数分布表から累積度数を求める問題 (正答率49.4%、全国比+3.4ポイント)

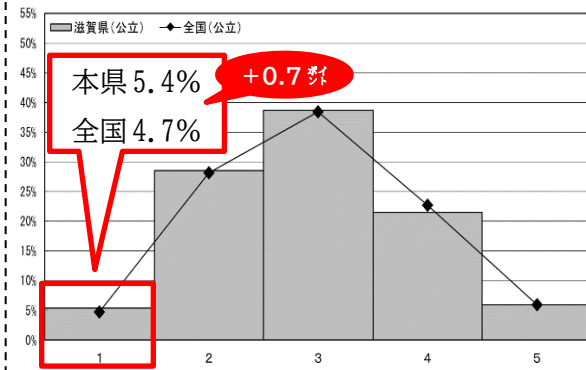
○ 顕著な課題が見られた問題は…

- ・ 同類項の意味を理解しているかどうかをみる問題 (正答率70.3%、全国比-0.2ポイント)
基本的な概念の定着に課題

下の式で、 $7x$ の同類項をすべて書きなさい。

$$7x + 9 - 5x + 7x^2 + 2x$$

◆令和8年度 IRT バンド* 分布グラフ



*IRT バンドについて

IRT バンド* とは、IRT スコアを 1～5 の 5 段階に区切ったもの。3 を基準のバンドとし、5 が最も高いバンドとなる。

IRT スコア・IRT バンドは、難易度の高い問題に正答していると高めに、難易度の低い問題に誤答していると低めに算出される。

中学校

○ IRT バンド* 分布グラフに着目すると…

- ・ IRT バンド分布グラフは、全国と同傾向の分布である。

○ 良好な状況にある問題は…

- ・ 過去形を活用して英文を正確に書く問題

正答例 Mei went to the park. (正答率 61.0%、全国比+2.1 ㊦)

正答例 Mei played tennis. (正答率 53.1%、全国比+0.4 ㊦)

- ・ 物語を読み、概要を捉える問題 (正答率 49.4%、全国比+0.4 ㊦)

○ 顕著な課題が見られた問題は…

- ・ 自分の考えや気持ちなどを英文で書く問題

中学生になってからの思い出について、体験したこととその感想を書く

(正答率 41.8%、全国比-5.7 ㊦、無解答率 12.8%)

「自分の考えや気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くこと」に課題

3 質問調査のポイントおよび結果の概要

【ポイント】

○児童生徒質問調査

・質問項目数は、小学校 73 項目（昨年度より 2 問増）、中学校 80 項目（昨年度より 8 問増）となった。

・MEXCBT の機能を生かし、一部の項目をランダム方式で実施された。

○学校質問調査

・質問項目数は、小学校 85 項目（昨年度より 1 問増）、中学校 93 項目（昨年度より 9 問増）となった。

○今年度新たに追加された質問

【児童生徒質問調査】

・学習に向かう姿勢（粘り強さや好奇心）や学習方法についての質問 [小中：18・19]

・ICT 機器やインターネット利用のルールやマナーについての質問 [小中：37]

【学校質問調査】

・児童生徒・教職員にとっての学校施設全体の居心地のよさについての質問 [小中：24・25]

・ICT 機器の適切な使い方や、ルール・マナー等の指導についての質問 [小：69 中：77]

【結果の概要】

(1) 令和 8 年度「取組の重点」に関する質問項目等

各質問項目に対して、4 つの選択肢の中から肯定的な回答（「発表していた」「どちらかといえば発表していた」「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」、「できている」、「どちらかといえばできている」）を選択した割合（％）を示した。

①発達段階を踏まえた言語活動の充実

質問項目	校種		R 7 調査	R 8 調査	前回調査との比較
授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか。 [児童生徒質問] 小中 38	小	本県	67.1	64.3	-2.8
		全国	68.6	66.4	-2.2
		差	-1.5	-2.1	-0.6
	中	本県	54.7	58.1	3.4
		全国	63.0	65.5	2.5
		差	-8.3	-7.4	0.9
授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。 [児童生徒質問] 小中 40	小	本県	76.8	70.9	-5.9
		全国	77.8	73.4	-4.4
		差	-1.0	-2.5	-1.5
	中	本県	65.2	66.6	1.4
		全国	70.6	70.8	0.2
		差	-5.4	-4.2	1.2

② 1人1端末等の効果的な活用

質問項目	校種		R 7 調査	R 8 調査	前回調査との比較
あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができると思いますか。 [児童生徒質問] 小中 36－1	小	本県	82.8	78.1	-4.7
		全国	81.8	79.1	-2.7
		差	1.0	-1.0	-2.0
	中	本県	81.0	82.6	1.6
		全国	83.6	84.8	1.2
		差	-2.6	-2.2	0.4
あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができると思いますか。 [児童生徒質問] 小中36－3	小	本県	66.6	66.3	-0.3
		全国	69.3	69.5	0.2
		差	-2.7	-3.2	-0.5
	中	本県	62.1	67.8	5.7
		全国	63.3	69.4	6.1
		差	-1.2	-1.6	-0.4

③自分に合った学び方を身に付ける指導の推進

質問項目	校種		R 7 調査	R 8 調査	前回調査との比較
分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか。 [児童生徒質問] 小中 22	小	本県	81.7	79.0	-2.7
		全国	81.7	79.4	-2.3
		差	0.0	-0.4	-0.4
	中	本県	75.8	76.7	0.9
		全国	77.5	78.2	0.7
		差	-1.7	-1.5	0.2
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。 [児童生徒質問] 小中 43	小	本県	79.1	78.6	-0.5
		全国	79.4	78.4	-1.0
		差	-0.3	0.2	0.5
	中	本県	69.8	75.8	6.0
		全国	73.4	79.0	5.6
		差	-3.6	-3.2	0.4
授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。 [児童生徒質問] 小中 39	小	本県	78.9	75.1	-3.8
		全国	80.3	77.6	-2.7
		差	-1.4	-2.5	-1.1
	中	本県	74.4	75.0	0.6
		全国	77.7	78.8	1.1
		差	-3.3	-3.8	-0.5
授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。 [児童生徒質問] 小中 41	小	本県	83.1	80.9	-2.2
		全国	83.4	80.8	-2.6
		差	-0.3	0.1	0.4
	中	本県	77.0	76.5	-0.5
		全国	79.3	78.9	-0.4
		差	-2.3	-2.4	-0.1

(2)「第Ⅲ期 学ば力向上滋賀プラン」に関する主な質問項目等

各質問項目に対して、4つの選択肢の中から肯定的な回答（「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」）を選択した割合（％）を示した。

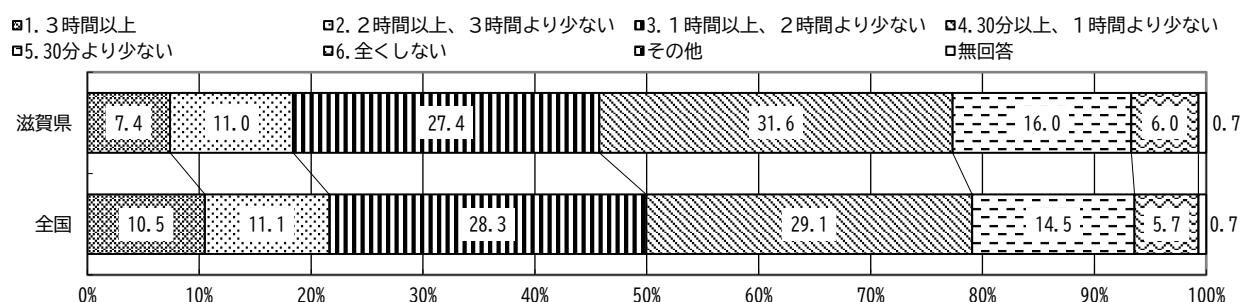
質問項目	校種		R 7 調査	R 8 調査	前回調査との比較
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。 [児童生徒質問] 小中 9	小	本県	91.6	91.4	-0.2
		全国	92.2	91.4	-0.8
		差	-0.6	0.0	0.6
	中	本県	91.1	89.8	-1.3
		全国	92.2	90.9	-1.3
		差	-1.1	-1.1	0.0
将来の夢や目標を持っていますか。 [児童生徒質問] 小中 10	小	本県	81.0	79.8	-1.2
		全国	83.1	81.8	-1.3
		差	-2.1	-2.0	0.1
	中	本県	64.5	64.7	0.2
		全国	67.5	67.6	0.1
		差	-3.0	-2.9	0.1
人が困っているときは、進んで助けていますか。 [児童生徒質問] 小中 11	小	本県	94.1	93.1	-1.0
		全国	93.7	92.7	-1.0
		差	0.4	0.4	0.0
	中	本県	88.9	89.6	0.7
		全国	90.9	90.8	-0.1
		差	-2.0	-1.2	0.8

(3) 児童生徒の基本的な生活習慣および学習習慣に関する質問項目（児童生徒質問）

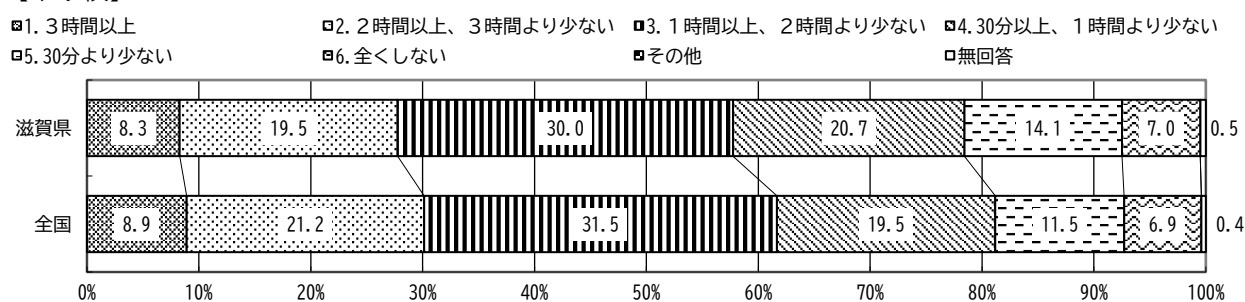
○家庭学習の時間

学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）。〔児童生徒質問〕小中 23

【小学校】



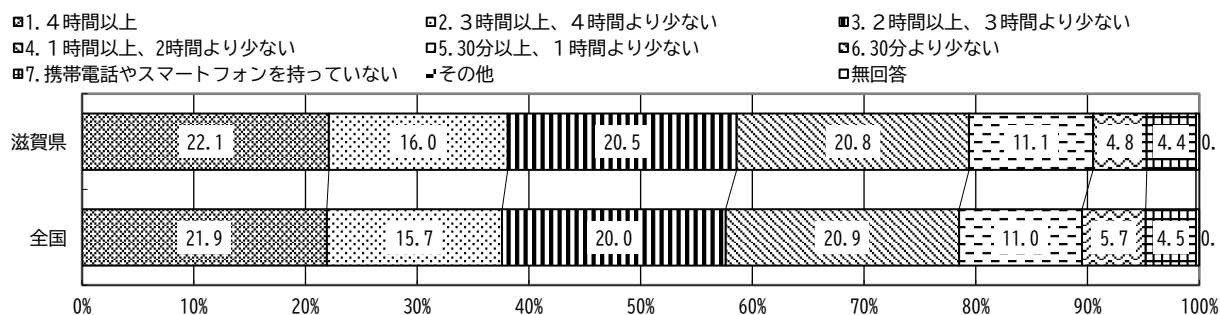
【中学校】



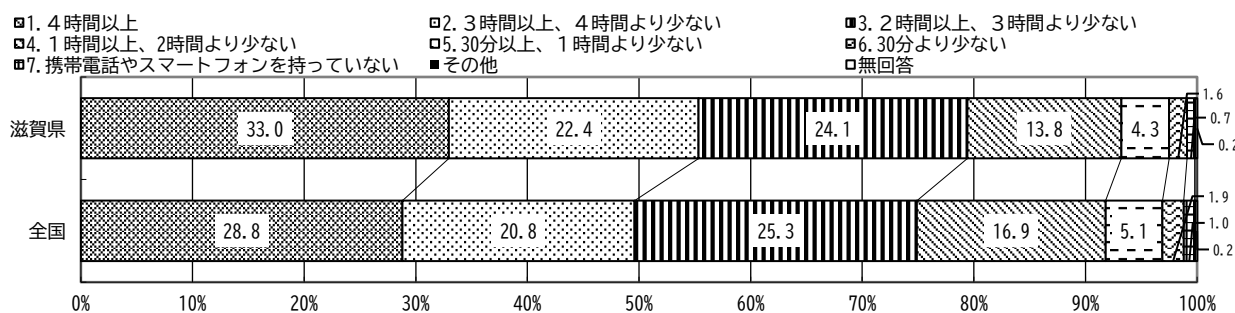
○ICT 機器の使用時間

普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンや携帯電話、パソコン、タブレット、ゲーム機、テレビ等（以下、「スマートフォン等」）で SNS や動画視聴などをしますか（スマートフォン等を使って学習する時間やゲームをする時間は除く）。〔児童生徒質問〕小中 4

【小学校】



【中学校】



令和8年度
全国学力・学習状況調査の結果
～文部科学省 公表資料より～

・ 調査の結果（概要）文部科学省資料	1
・ 教科に関する調査の結果【滋賀県：小学校】	97
・ 教科に関する調査の結果【滋賀県：中学校】	101
・ 児童質問調査【滋賀県：小学校】	107
・ 生徒質問調査【滋賀県：中学校】	144
・ 学校質問調査【滋賀県：小学校】	184
・ 学校質問調査【滋賀県：中学校】	231

滋賀県教育委員会事務局幼小中教育課

令和8年度全国学力・学習状況調査の結果公表①のポイント

令和8年7月

文部科学省・国立教育政策研究所

1 令和8年度全国学力・学習状況調査の概要



調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、

全国的な児童生徒の学力や
学習状況を把握・分析し、
教育施策の成果と課題を検証し、
その改善を図る

学校における児童生徒への
学習指導の充実や
学習状況の改善等に
役立てる



そのような取組を通じて、
教育に関する継続的な
検証改善サイクルを
確立する



調査概要

調査実施日	令和8年4月20日(月)～5月29日(金)
調査対象	小学校6年生、中学校3年生
調査事項	①児童生徒：教科調査〔国語、算数・数学、 英語（中学校のみ） 〕 / 質問調査 ②学 校：質問調査 ※令和5年度以来の実施
調査問題	・学習指導要領で育成を目指す、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題を出題 ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善のメッセージを発信
今年度の調査の特徴	・中学校・英語（4技能（聞くこと・読むこと・書くこと・話すこと））の 全面CBT（Computer Based Testing）化 ※「話すこと」調査のみ令和5年度もCBTで実施 ・小学校・児童質問でのランダム方式の導入

2 令和8年度全国学力・学習状況調査の結果公表スケジュール

7月16日（木）	結果公表①（正答率・IRTバンド分布などの全国平均） 学校向け帳票、個人票の提供
7月27日（月）	教育委員会向け帳票の提供
8月3日（月）	結果公表②（全国データに基づく分析結果）
9月以降（秋頃目途）	結果公表③（都道府県・指定都市別データに基づく分析結果）

3 CBT調査の実施状況（中学校英語）

（１）学校単位の実施状況

	中学校英語を実施した学校数		中学校英語を実施しなかった学校数（※）			計
	調査実施日に調査を実施し、完了した学校数	後日実施を行い、完了した学校数	ネットワーク・端末の理由	準備面の理由	その他	
英語「聞くこと・読むこと・書くこと」	9,349校 (98.0%)	156校 (1.6%)	0校 (0%)	1校 (0.01%)	29校 (0.3%)	9,535校
英語「話すこと」	9,461校 (99.5%)		0校 (0%)	1校 (0.01%)	42校 (0.4%)	9,504校

※ 実施しなかった理由

- ◆ 準備面の理由：MEXCBTの登録申請が遅れた
- ◆ その他：対象生徒の体調不良等

（２）生徒単位の実施状況

	調査実施日に調査を実施し、完了した生徒数	後日実施を行い、完了した生徒数	計 (調査完了生徒総数)
英語「聞くこと・読むこと・書くこと」	861,464人	15,065人	876,529人
英語「話すこと」			863,794人(※)
(参考) 中学校国語	864,717人	15,500人	880,217人
(参考) 中学校数学	865,360人	15,458人	880,818人

※ 英語「話すこと」は、当日実施校(46,645人)と期間内実施校(817,149人)の実施人数の総数。

（３）配慮版プログラムの使用状況

	拡大文字問題プログラム	点字問題冊子	代筆解答プログラム	時間延長プログラム	ルビ振り問題プログラム	スクリプト表示プログラム
英語「聞くこと」	644人	23人		177人	11,651人	
英語「読むこと・書くこと」	725人	23人		119人	12,441人	
英語「話すこと」	294人	21人	16人		9,331人	96人

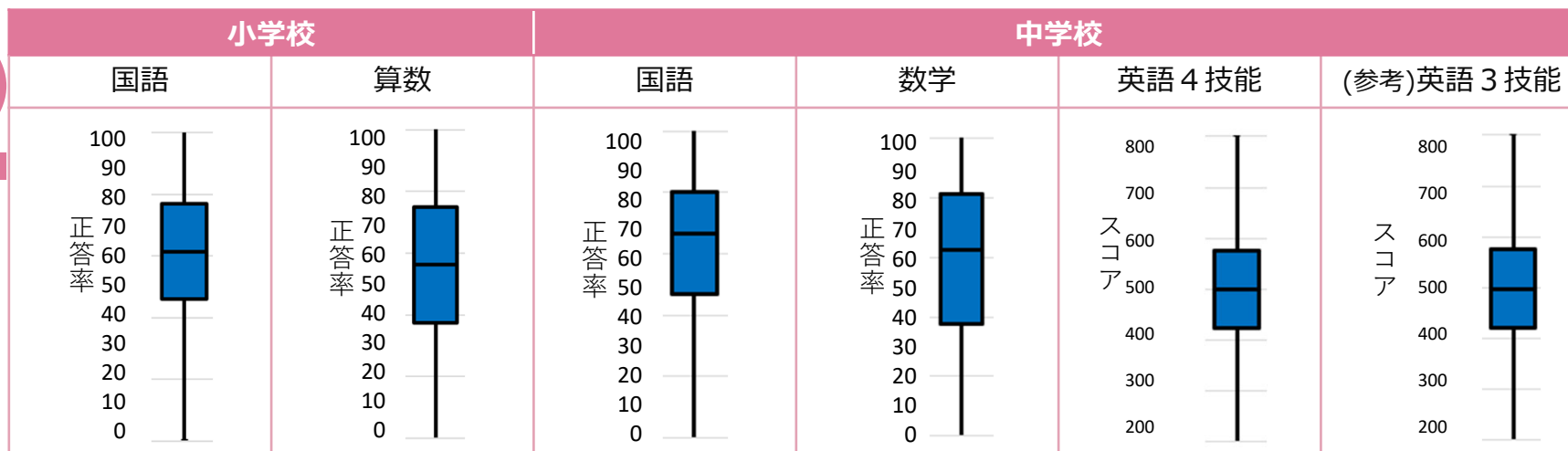
※ 中学校英語は、IRT（項目反応理論）に基づき、500を基準に算出したIRTスコアで結果を表示。IRTスコアは、「聞くこと・読むこと・書くこと・話すこと」の4技能を統合したもので、「話すこと」の当日実施校（46,645人分）のデータに基づいて全国値を算出。各学校には、「聞くこと・読むこと・書くこと」（876,529人分）の3技能を統合したIRTスコアを返却。

全国（国公私）の
平均正答数（率）・
平均IRTスコア

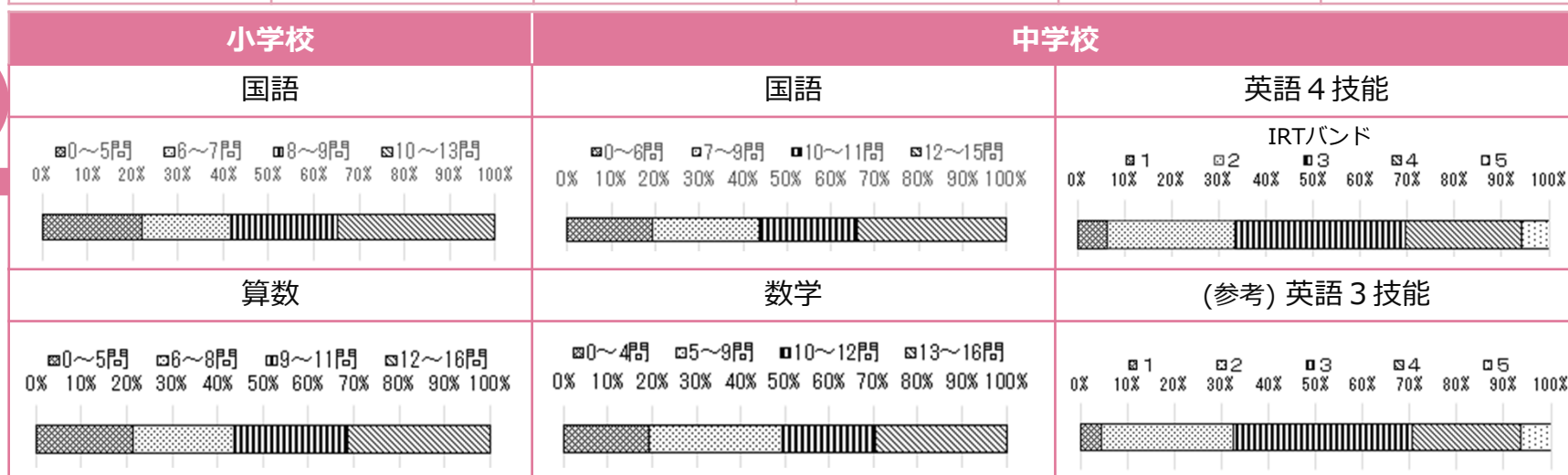
小学校		中学校			
国語	算数	国語	数学	英語 4 技能	(参考)英語 3 技能
7.9/13 問 (61.1%)	9.1/16 問 (56.6%)	9.6/15 問 (64.2%)	9.2/16 問 (57.4%)	499	502

※ 各年度の問題の難易度を厳密に調整する設計とはしておらず、年度によって出題内容も異なることから、**過年度の結果と単純に比較することは適当ではない**ことに留意が必要。

全国の正答率・
IRTスコアの分布



正答数・IRTバンド
ごとの層分布



※ 本調査におけるIRTバンド（中学校英語）は、理想的な正規分布となった場合、バンド3が約40%、バンド2及びバンド4が約23%、バンド1及びバンド5が約7%となるように設定したもののだが、実際の各生徒のスコア状況により各バンドの割合は変動する。

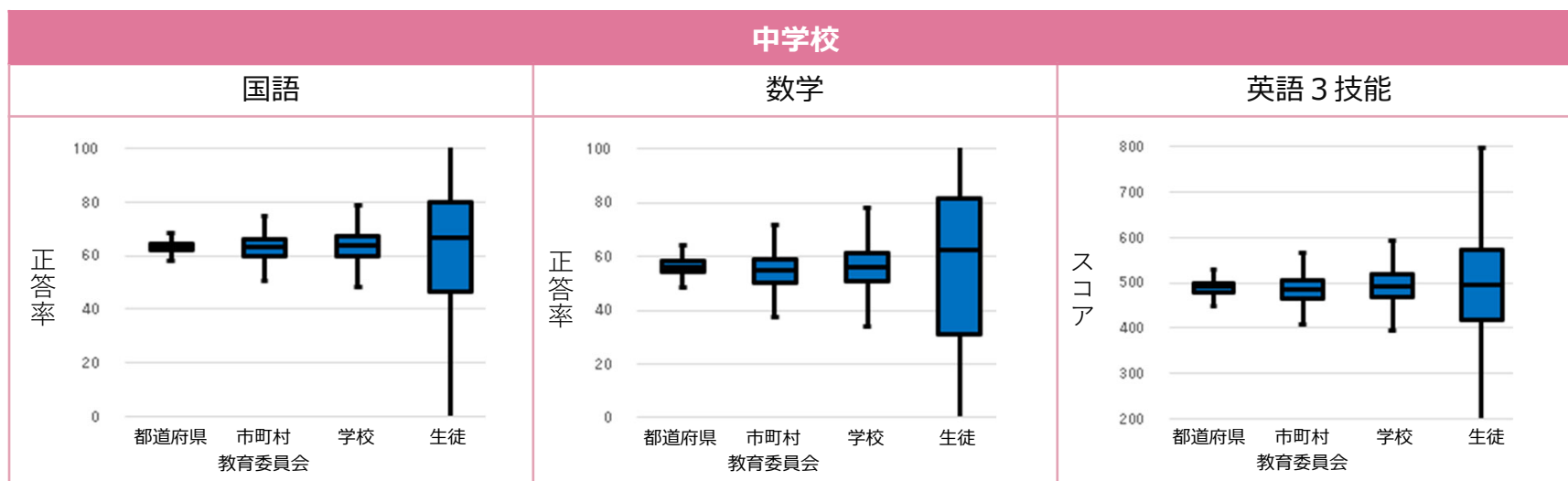
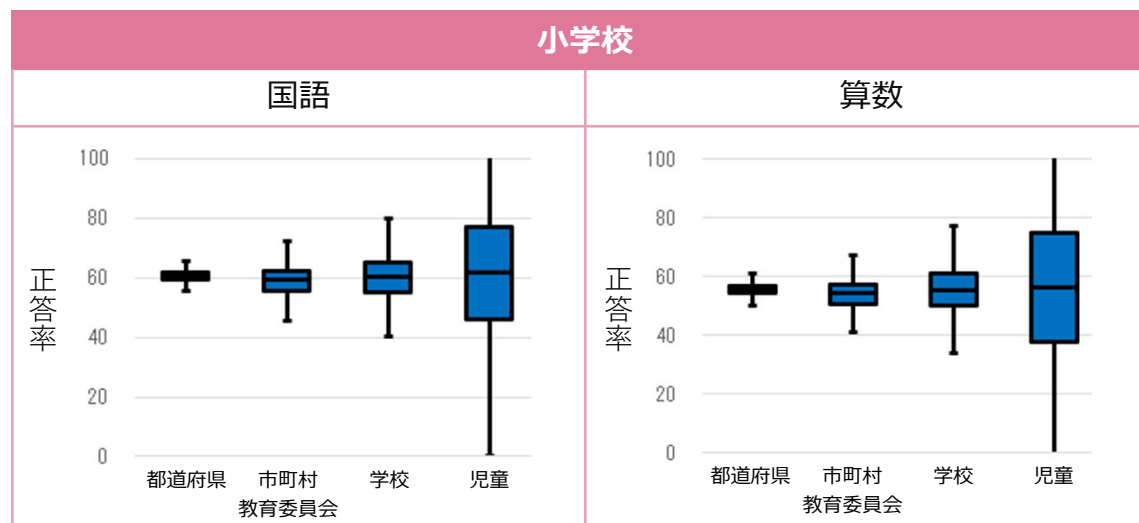
中学校英語 IRTバンド	1	2	3	4	5
4技能スコア換算	~341	342~448	449~556	557~663	664~
3技能スコア換算	~329	330~443	444~558	559~673	674~

様々な集計単位で見る
正答率・IRTスコアの
ばらつき

- ・各集計単位の平均正答率・スコアのばらつきは過年度と比べて大きな変化は見られない。
- ・都道府県別の平均正答率・スコアについては、ばらつきの状況は狭い範囲に収まっている。

※都道府県・指定都市別
データに基づく分析結果
は、令和8年9月以降に
公表予定。

※英語「話すこと」は当日
実施校の結果を全国値と
しているため、英語の集
計単位毎の結果は3技能
で表示。



箱ひげ図



- 第3四分位数から、第1四分位数～第3四分位数の1.5倍の長さの中での最大値
- 第3四分位数（75パーセンタイル）
- 中央値（第2四分位数（50パーセンタイル））
- 第1四分位数（25パーセンタイル）
- 第1四分位数から、第1四分位数～第3四分位数の1.5倍の長さの中での最小値

パーセンタイル

計測値の統計的分布の上で、
小さい方から数えて何%目の値は、
どれくらいかという見方をする統計
的表示法

5 質問調査結果（児童生徒、学校）【速報】



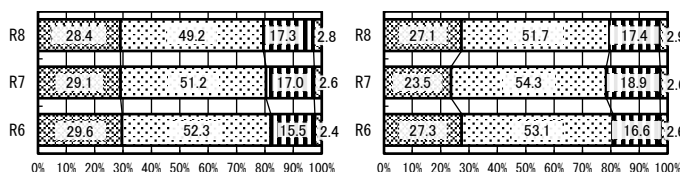
学習指導要領の趣旨を踏まえた取組

- ◆ 昨年度までと同様、約80%の児童生徒が「**主体的・対話的で深い学び**」に取り組んだと考えている。

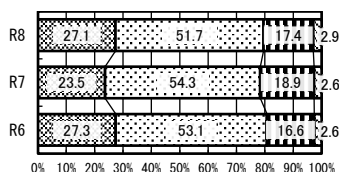
課題の解決に向けて自分から取り組んだ

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない

小学校



中学校



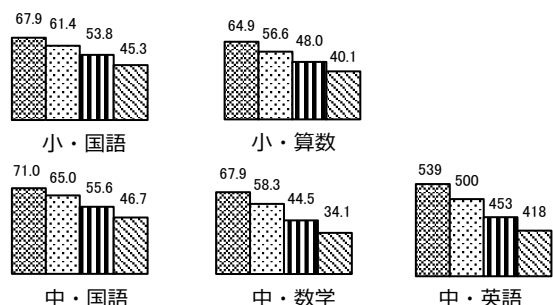
- ◆ 「**主体的・対話的で深い学び**」に取り組んだと考える児童生徒ほど、**各教科の正答率・スコア**が高い傾向。

児童生徒質問「課題の解決に向けて自分から取り組んだ」の選択肢ごとの教科の正答率・スコア

課題の解決に向けて自分から取り組んだ

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない

選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア



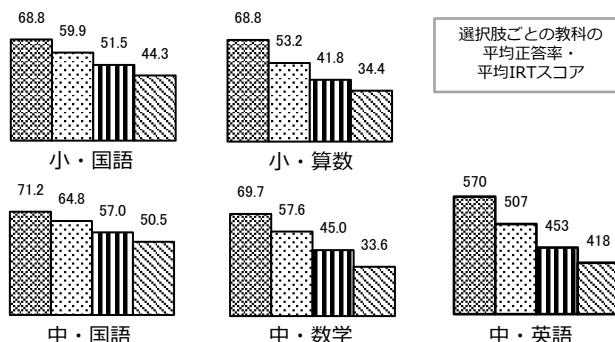
※「課題の解決に向けて自分から取り組んだ」以外の「主体的・対話的で深い学び」に関する回答でも同様の傾向。

各教科への興味・関心、理解度

- ◆ 「**授業の内容がよく分かる**」と回答した児童生徒ほど**各教科の正答率・スコア**が高い傾向。

授業の内容がよく分かる

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない



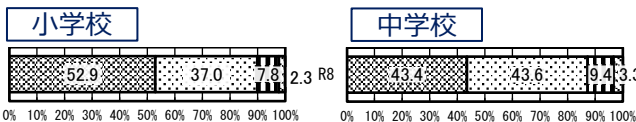
選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア

ICT機器の活用

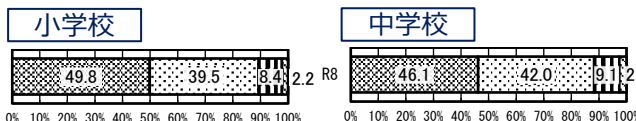
- ◆ 約90%の児童生徒が、ICT機器を活用することで「**楽しみながら学習を進めることができる**」「**友達と協力しながら学習を進めることができる**」と考えている。

そう思う
 どちらかといえば、そう思う
 どちらかといえば、そう思わない
 そう思わない

楽しみながら学習を進めることができる



友達と協力しながら学習を進めることができる



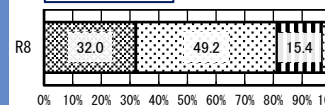
挑戦心や好奇心

- ◆ 約70%～90%の児童生徒が、**挑戦心や好奇心**に関する質問に肯定的に回答している。また、そのような児童生徒ほど、**各教科の正答率・スコア**が高い傾向。

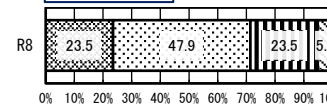
課題が難しくなると、さらに努力する

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない

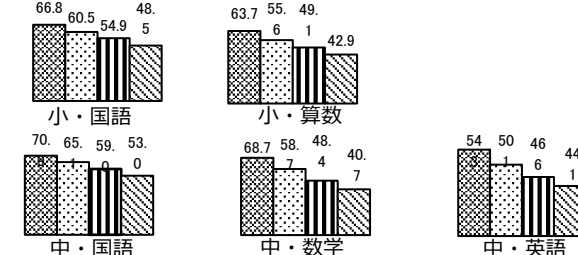
小学校



中学校



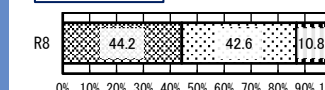
選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア



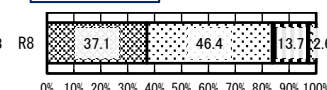
新しいことを学ぶのは好きだ

当てはまる
 どちらかといえば、当てはまる
 どちらかといえば、当てはまらない
 当てはまらない

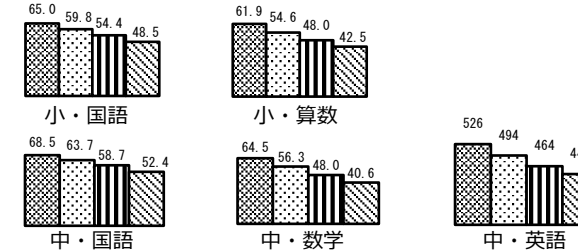
小学校



中学校



選択肢ごとの教科の平均正答率・平均IRTスコア



※中学校英語はCBTで実施し、英語4技能のIRTスコアにより結果を表示している。

令和8年度全国学力・学習状況調査の結果（概要）

令和8年8月
文部科学省・国立教育政策研究所

目次

1. 令和8年度全国学力・学習状況調査の概要	1
2. 教科に関する調査結果	4
(1) 小学校国語	4
(2) 中学校国語	10
(3) 小学校算数	15
(4) 中学校数学	23
(5) 中学校英語	29
3. 質問調査結果（児童生徒、学校）	49
(1) 学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の取組状況	49
① 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善	
② 学びの主体的な調整	
(2) ICTを活用した学習状況	54
① ICTの活用状況等	
② ICT機器やインターネット活用に関するルールやマナー	
③ 教員研修やサポート	
(3) 教科に関する意識や学習活動の状況	63
① 各教科に対する興味・関心や授業の理解度	
② 男女差	
③ 国語科、算数・数学科における思考・判断・表現の取組	
④ 外国語科における言語活動の状況	
⑤ 授業外における英語学習の取組	
(4) 授業外（学校外）での学習や生活の状況	71
① 授業外の学習状況	
② 授業外（学校外）での学習環境	
③ 授業外（学校外）での読書の状況	
④ 地域や社会にかかわる活動	
(5) 児童生徒の挑戦心や好奇心、ウェルビーイング等に関する状況	77
① 挑戦心や好奇心	
② ウェルビーイング	
4. 文部科学省の主な取組一覧	83

調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、

- 全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- 学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

調査概要

調査実施日	令和8年4月20日(月)～5月29日(金)
調査対象	小学校6年生、中学校3年生
調査事項	①児童生徒：教科調査〔国語、算数・数学、 英語（中学校のみ） 〕 / 質問調査 ②学 校：質問調査 ※令和5年度以来の実施
調査問題	・学習指導要領で育成を目指す、知識及び技能や思考力、判断力、表現力等を問う問題を出題 ・「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善のメッセージを発信
今年度の調査の特徴	・中学校・英語（4技能「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「話すこと」）の 全面CBT（Computer Based Testing）化 ※「話すこと」調査のみ令和5年度もCBTで実施 ・小学校・児童質問でのランダム方式の導入

調査対象及び集計対象
児童生徒数・学校数

	小学校				中学校			
	調査対象 児童数(※1)	集計対象 児童数(※2)	調査対象 学校数	集計対象 学校数(※2)	調査対象 生徒数(※1)	集計対象 生徒数(※2)	調査対象 学校数	集計対象 学校数(※2)
公立	990,870人	922,778人	18,126校	18,077校 (99.7%)	953,990人	842,491人	9,249校	9,146校 (98.9%)
国立	6,264人	5,949人	75校	74校 (98.7%)	9,826人	8,809人	80校	77校 (96.3%)
私立	13,580人	6,246人	252校	120校 (47.6%)	84,223人	14,060人	799校	207校 (25.9%)
合計	1,010,714人	934,973人	18,453校	18,271校 (99.0%)	1,048,039人	865,360人	10,128校	9,430校 (93.1%)

(※1) 調査対象児童生徒数について、公立及び国立は、調査実施前に学校から申告された児童生徒数、私立は、令和7年度学校基本調査による。調査当日までに増減した可能性がある。

(※2) 集計対象児童生徒数・学校数は、調査の実施日に調査を実施した数。集計対象児童生徒数は、回収した解答用紙が最も多かった教科（小学校：算数、中学校：数学）の解答用紙の枚数で算出。

教科に関する調査結果概要

◆全国（国公私）の平均正答数・平均正答率・平均IRTスコア（※1）

	小学校		中学校			
	国語	算数	国語	数学	英語 4 技能	(参考) 英語 3 技能
令和8年度	7.9/13問 (61.1%)	9.1/16問 (56.6%)	9.6/15問 (64.2%)	9.2/16問 (57.4%)	499	502
【参考】令和7年度 (英語は令和5年度)	9.4/14問 (67.0%)	9.3/16問 (58.2%)	7.6/14問 (54.6%)	7.3/15問 (48.8%)	—	(※2)

※中学校英語はCBTで実施し、IRT（項目反応理論）に基づき500を基準に算出したIRTスコアで結果を表示。IRTスコアは、「聞くこと・読むこと・書くこと・話すこと」の4技能を統合したもので、「話すこと」の当日実施校（46,645人分）のデータに基づいて全国値を算出。各学校には、「聞くこと・読むこと・書くこと」（876,529人分）の3技能を統合したIRTスコアを返却。

(※1) 各年度の問題の難易度を厳密に調整する設計とはしておらず、年度によって出題内容も異なることから、過年度の結果と単純に比較することは適当ではないことに留意が必要。

(※2) 前回調査（令和5年度）における中学校英語「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の3技能の正答数・正答率は7.8/17問（46.1%）。
なお、「話すこと」調査の結果については、正答数・正答率は0.6/5問（12.4%）。

◆用語説明

IRT	項目反応理論。児童生徒の正答・誤答が、問題の特性によるのか、児童生徒の学力によるのかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論。異なる問題から構成される試験・調査の結果を同じものさし（尺度）で比較できる。
IRTスコア	IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すもの。各教科にCBT・IRTを導入する年の全国平均500を基準値とし、経年比較が可能な形で算出。 基準値の全国平均は、算出された各生徒のスコアを足し合わせて平均をとっているため、500に一致するとは限らない。 理想的な正規分布(データが平均の付近に集積するような分布)となった場合、標準偏差は100となるが、実際の各生徒のスコア状況により変動する。
IRTバンド (※3)	IRTスコアを1～5の5段階に区切ったもので、平均バンドは3、最も高いバンドは5となる。各教科にCBT・IRTを導入する年の全国平均3を基準値とし、経年比較が可能な形で算出。 IRTバンドは、生徒ごとに算出したIRTスコアを決められた幅に区切って設定。IRTバンドが理想的な正規分布となった場合、3が約40%、2・4が約23%、1・5が約7%となるが、実際の各生徒のスコア状況により変動する。

(※3) 今年度の中学校英語IRTバンドにおけるIRTスコアの区分は次のとおりである。

中学校英語 IRTバンド	1	2	3	4	5
4技能スコア換算	～341	342～448	449～556	557～663	664～
3技能スコア換算	～329	330～443	444～558	559～673	674～

教科に関する調査結果概要

教科に関する調査の結果のポイント

【国語】

- 文章を引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題が見られた。
 - 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることに課題が見られた。
- **自分の考えを伝える際に、考えと根拠を区別して表現することを意識させることが重要。**

【算数・数学】

- 立方体の体積の求め方の理解や、基準量、比較量、割合の関係を正しく捉えることに課題が見られた。
 - 2直線が平行になる条件の理解に課題が見られた。
- **図形の指導において具体的な活用場面を通じて理解を深めることや、量と割合の違いについて図で表現するなどしながら理解を深めることが重要。**

【英語】

- 社会的な話題に関して読んだことについて、自分の考えを書くことはできているが、その理由を書くことに課題が見られた。
 - 日常的な話題について、自分がしたいことを話すことはできているが、その理由を話すことに課題が見られた。
- **自分の考えを書いたり話したりする際に、読み手や聞き手に伝わるよう、理由を示すことを意識させることが重要。**

結果のポイント

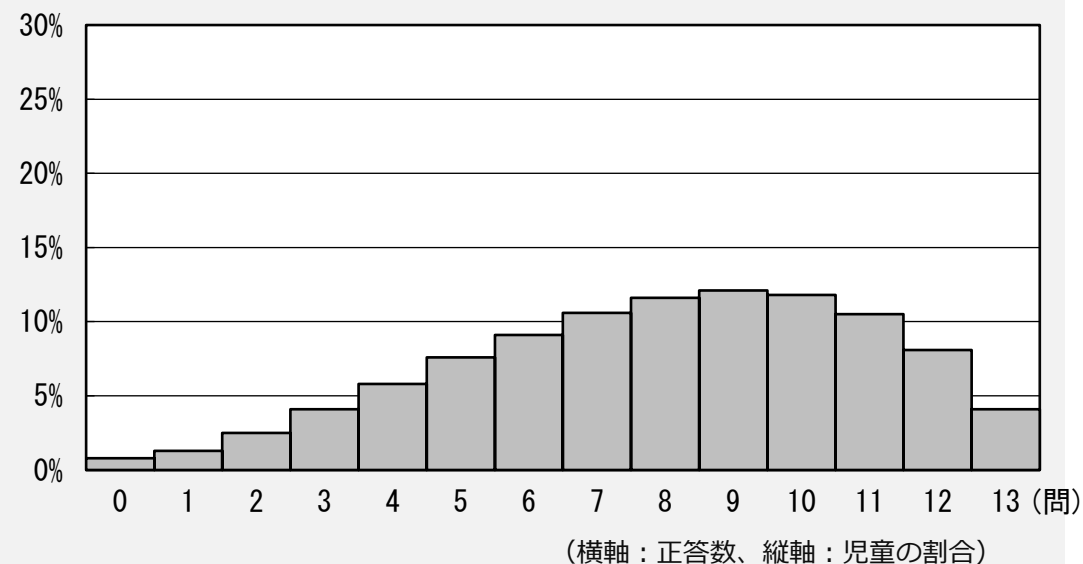
- ① 【p.5】【構成メモ】の工夫として適切なものを選択する問題（大問1ー）
相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができる。
- ② 【p.6】【集めた情報】から抜き出して考えが伝わるように書く問題（大問2四）
引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。
- ③ 【p.7】文章に続く文として適切なものを選択する問題（大問2二）
考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解することに課題がある。
- ④ 【pp.8-9】メモにどのように整理したのかを説明したものとして適切なものを選択する問題（大問3二）
情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことに課題がある。

〈分類・区分別集計結果〉

分類		区分	対象 問題数 (問)	平均 正答率 (%)
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	4	66.9
		(2)情報の扱い方に関する事項	2	52.4
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	65.9
		B 書くこと	2	45.8
		C 読むこと	2	66.1
評価の観点		知識・技能	6	62.1
		思考・判断・表現	7	60.2
問題形式		選択式	9	62.1
		短答式	2	62.8
		記述式	2	55.1

〈小学校国語の児童の正答数分布グラフ〉

平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差	最頻値
7.9問/13問	61.1%	8.0問	3.0問	9問



結果のポイント①

相手に伝わるように、理由や事例などを挙げながら、話の中心が明確になるよう話の構成を考えることができる。

具体的な設問例

大問 1ー

【構成メモ】の工夫として適切なものを選択する。

解答の分析

無解答率0.7%

【構成メモ】

時間	えい像のイメージ	伝えたいこと
はじめ 10秒		○話題の提示 ・草花遊び
中① 1分		○遊び方 音を鳴らして遊ぶ ・くき笛（たんぼぼ） 友達といっしょに鳴らして、音が重なるのが楽しい。
中② 1分		対決して遊ぶ ・草すもう（おおぼこ） 友達と対決して、勝ったり負けたりするのがおもしろい。
終わり 20秒		○まとめ ・友達といっしょに草花遊びを楽しんでほしい。

ー 同野さんたちのグループは、「同野さんたちの考え」をもとに、動画の「構成メモ」をくふうして作り直した。そのくふうとして最も適切なものを、下の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きなさい。

【同野さんたちの考え】

草花遊びは一人でできるものもあるけれど、みんなで遊べるものの方がいいと思う。みんなで遊べるものの方がいいと思う。みんなで遊べるものの方がいいと思う。



① 同野さんの学校では、学校生活をより楽しくするために、休み時間の過ごし方を動画にして学校のみんなにしようかという話がありました。同野さんたちのグループは、草花遊びをしようかという話をしていました。次の「同野さんたちの考え」をよく読んで、あとの問いに答えなさい。

【構成メモ】の工夫として適切なものを選択する。

1	3.9%
2	11.2%
3 (正答)	74.0%
4	9.8%
上記以外	0.3%

○ 本問の正答率は74.0%。

○ 誤答の「2」・「4」を選択した児童の中には、伝えたいことが相手によく伝わるよう、事例を選んでいることを捉えることができなかった児童や、話の構成を考えていることを捉えることができなかった児童がいたと考えられる。

指導改善のポイント

構成メモを整理する際には、目的や意図、聞き手の求めていることを踏まえて、話の内容を検討する場面を設定することが重要である。その際、集めた材料が目的などに合っているかどうかを意識しながら確かめ、より適切なものを選んだり、必要に応じて新たに集めたりするよう指導することが求められる。

☞「令和8年度【小学校国語】
報告書」大問1 授業アイディ
ア例

https://www.nier.go.jp/26chousak/ekkahoukoku/report/data/26plang/idea_01.pdf#page=11



結果のポイント②

引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。

具体的な設問例 大問2四

【花山さんの文章の続き】の空欄に入る内容を、【集めた情報】から抜き出して考えが伝わるように書く。

条件① 【集めた情報】の中から、本の題名と本文の一部の内容を選んで、抜き出して書いている。

条件② 抜き出した本の題名と本文の一部の内容はかぎっこ（「 」）でくくっている。

条件③ 抜き出した内容をもとに、涼しく過ごせる衣服の色について考えたことを書いている。

条件④ 140字以内にまとめて書いている。

【花山さんの文章の続き】

4 すずしく過ごせる衣服の色は何色か
「色の効果」という本には、「青は海や水を連想させ、すずしうに見える。」と書かれている。青や水色などひんやりとしたイメージのある色の服を着ることで、長そででもすずしく過ごすことができそう。

5 終わりに
これまでなんとなく選んでいた衣服も、日差しをさえぎるくふうや、衣服の形、着方、色をくふうすることによって快適に過ごせることが分かった。今回分かったことを生かし、これからの生活の中で衣服をくふうしていきたい。

(参考文けん)

【集めた情報】

本の題名	本文の一部
色の効果	青は海や水を連想させ、すずしうに見える。白は雪の色であり、冷たい印象がある。赤があたたかく感じられるのは、太陽や火を連想させるからだ。
生活と太陽	白は熱や光を反しやすいため、熱くなりやすい。一方、黒は熱や光をきゅうしゅうし、熱くなりやすい。
夏のくらし方	白やうすい青はさわやかに見え、すずしく感じます。さらに、着ている人だけでなく、周りの人にもすずしさを感ぜさせます。

四 花山さんは、「【集めた情報】」をもとに、「すずしく過ごせる衣服の色は何色か」について考えたことを「花山さんの文章の続き」に書いている。あなたが花山さんなら、空欄に入る内容を、【集めた情報】の中から、本の題名と本文の一部の内容を選んで、かぎっこ（「 」）でくくって、140字以内にまとめて書こう。

【花山さんの文章の一部】

暑い夏を快適に過ごすための衣服のくふう

1 はじめに
夏休みに外出したとき、長そでの服を着ている人を見かけた。暑いときは、そでがみじかい方がすずしいのではないかな。なぜ、長そでの服を着ているのか、ふしぎに思い、暑い夏を快適に過ごすための衣服のくふうについて調べることになった。

2 どうして暑い日に長そでの服を着るのか
「生活と太陽」という本には、「日差しの強いときにはだを出して日焼けをすると、はだがひりひりしたり、水分が失われたりする。」と書かれている。また、「世界の衣服」という本には、「暑い国の中には、はだのほとんどを衣服でおおっている人たちがいる。皮ふに直し日光を当てない方がすずしいのである。」と書かれている。①強い日差しが照りつけるえん天下では、はだを出さないように着る物をくふうすることができそう。

3 すずしく過ごせる長そでの服の着方があるのか
「熱中しようかん境保健マニュアル2022」には、暑さをさげる衣服のくふうとして、「ゆったりした衣服にする」、「えり元をゆるめて通気する。」と書かれている。また、「夏のくらし方」という本には、「服とはだの間に風が通るようにえり元やすそをゆったりさせると、すずしくなります。」と書かれている。②(図)のように衣服の形や着方を意識してくふうすることで、長そでの服でもすずしく快適に過ごすことができそう。

では、衣服の形や着方以外に、快適に過ごすくふうはあるのだろうか。



② 花山さんの学校の学級では、夏を快適に過ごすためのくふうについて調べて考えたことを書き、友達と報告し合うことになりました。花山さんは、「暑い夏を快適に過ごすための衣服のくふう」について調べ、文章を書いています。次の「花山さんの文章の一部」をよく読んで、あとの問いに答えましょう。

解答の分析

無解答率5.1%

正答例

正答率
33.6%

「生活と太陽」という本には、「白は熱や光を反しやすいため、熱くなりやすい。一方、黒は熱や光をきゅうしゅうし、熱くなりやすい。」と書かれている。特に強い日差しが照りつけるえん天下では、黒い服より白い服を着る方が、すずしく過ごすことができそう。

条件③は満たしているが、①・②を満たしていないもの
…29.1%

白は雪の色であり、冷たい印象がある。また、白色や青色の衣服は着ている人だけでなく、周りの人にもすずしさを感ぜさせることができる。

○誤答例の解説

誤答例のように解答した児童は、涼しく過ごせる衣服の色について考えたことを書いているが、【集めた情報】の中から、本の題名と本文の一部の内容を選んで、抜き出して書いていない。この中には、【集めた情報】の中から、本文の一部を用いて書いているものの、引用した部分と自分の考えとの関係を明確にし、区別して書くことができなかった児童もいたと考えられる。

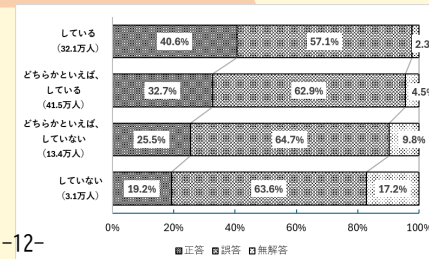
指導改善のポイント

引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫するためには、引用する目的を明確にした上で、本や文章などから必要な語句や文を抜き出して書くことが重要である。原文に正確に引用することや、引用した部分と自分の考えとの関係などを明確にし、区別して書くことも大切である。引用する目的を児童と教師が共有しておくことが重要である。

クロス集計

児童質問調査 × 大問2四の正答率

0.164



児童質問調査〔58〕「5年生までにうけた授業では、国語の授業で、文章などを引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書きましたか」の各選択肢を選んだ児童の本設問における解答状況(%)

この質問に肯定的に回答したグループの方が、大問2四の正答率が高く、無解答率も低い。

結果のポイント③

考えとそれを支える理由や事例など情報と情報との関係について理解することに課題がある。

具体的な設問例 大問 2 二

【花山さんの文章の一部】の下線部①に続く文として適切なものを選択する。

- 1 例えば、長そでのシャツをはおるなどのくふうが考えられる。
- 2 例えば、そでのないシャツを着るなどのくふうが考えられる。
- 3 例えば、えり元を開けて着るなどのくふうが考えられる。
- 4 例えば、日かげを選んで歩くなどのくふうが考えられる。

二 花山さんは、【花山さんの文章の一部】の部①で述べた「くふう」を具体的に説明したいと考え、文を書き加えることにしました。部①に続く文として最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

解答の分析

無解答率1.1%

【花山さんの文章の一部】の下線部①「強い日差しが照りつけるえん天下では、はだを出しすぎないように着る物をくふうすることができそうだ。」に続く文として適切なものを選択する。

1 (正答)	49.0%
2	7.2%
3	33.0%
4	9.4%
上記以外	0.3%

誤答を選んだ児童の中には、「例えば、」という表現に続く内容が考えを支える事例であると捉えることができなかった児童や、文脈とは関係なく【花山さんの文章の一部】のく図>や自分の経験を基に選択した児童がいたと考えられる。

さらに、誤答の「3」を選んだ児童の中には、衣服の工夫を具体的に書くことを理解することはできたが、着る物の工夫ではなく着方の工夫を具体的に書くことと捉えた児童がいたと考えられる。

指導改善のポイント

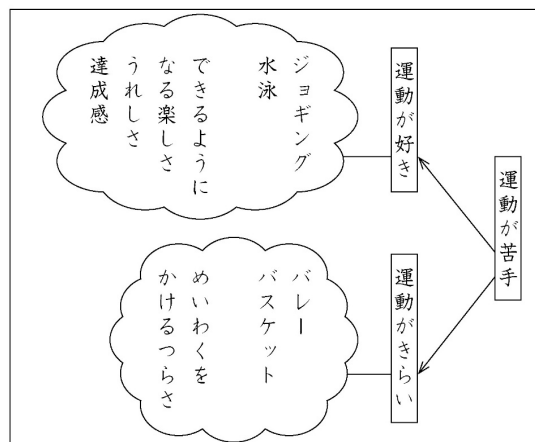
情報と情報との関係について理解する指導事項を単元の中でどのように位置付けるとよいかを教師が意識して設定することが重要である。児童によっては、自分の考えについて具体例を想起できなかったり、自分の考えと具体例を正対していなかったりすることが考えられる。これらの児童に対しては、教師や友達と交流したり、読み手の立場に立って振り返ったりする機会を設定することが効果的である。その際、自分の伝えたい考えは何かを確かめた上で、自分の考えを支える理由や事例を複数挙げ、最も適したものを選択できるようにすることが大切である。

結果のポイント④

情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことに課題がある。

具体的な設問例 大問3二

傍線部①、②、③について【林さんのメモ】にどのように整理したのかを説明したものとして適切なものを選択する。



【林さんのメモ】

二 林さんは、「文章」を読んで、筆者の考えを理解するために、——部①、②、③について【林さんのメモ】のように整理しました。林さんはどのように整理しましたか。その説明として最も適切なものを、下の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

解答の分析

無解答率2.5%

1 (正答)	55.8%
2	21.1%
3	13.7%
4	6.6%
上記以外	0.2%

○誤答の「2」を選択した児童は、林さんが、「苦手」を「好き」と「きれい」の場合に矢印で分けていると捉えることはできていたが、**筆者の経験したことと結び付けて整理していると捉えることができなかった**と考えられる。

○誤答の「3」を選択した児童は、林さんが、筆者の経験したことと結び付けて整理していると捉えることはできていたが、「苦手」を「好き」と「きれい」の場合に**矢印で分けていると捉えることができなかった**と考えられる。

指導改善のポイント

文章を理解するために必要だと判断した複数の語句を丸や四角で囲んだり、関係する語句と語句とを線でつないだりするなど、目的に応じて、図示しながら情報を整理するよう指導することが効果的である。

関連する過去の問題 令和7年度 大問1二

【話し合いの記録】の書き表し方を説明したものとして適切なものを選択する。

- 二 【話し合いの記録】の書き表し方を説明したものとして最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。
- 質問する内容を丸で囲み、質問しない内容に線を引いて区別している。
 - 質問する内容を四角で囲み、線でつなぐことでインタビューの流れを整理している。
 - 質問する内容を短い言葉で書き、線でつなぐことで質問を一つにしぼっている。
 - 質問する内容をできるだけ詳しく書き、多くの質問ができるようにしている。

【話し合いの様子】

小森さん 質問することを整理するために、話し合ったことを記録するね。私は、運転士さんがどんなことを大切にしているかを知りたいな。きつと、乗客の安全を大切にしていると思うな。

清川さん ぼくがよく乗るバスはいつも時間どおりに来るよ。時間を守ることも大切にしていると思うな。

町田さん 安全を考えながら時間を守ることは、大変そうだな。

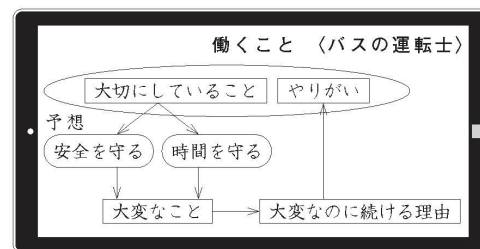
小森さん 確かに、大変そうだね。「仕事で大切にしていること」で話してくれたことをきっかけにして、「仕事で大変なこと」を聞くことができるかもしれないよ。

清川さん バスの運転士は、楽しそうだなと思っていただけ、大変なこともありそうだね。大変なことがあっても仕事を続けている理由も聞きたいな。

町田さん きつと仕事にやりがいがあるからだよ。

清川さん ぼくもそう思うな。大切にしていることとやりがいについては、働くことについて考えるためにもぜひ聞きたいね。

小森さん うん、そうしよう。ここまでの話し合いの記録をこんなふうにまとめたよ。この進め方でいいかな。



- 1 小森さんの学級では、働くことについて考えるために、自分の興味のある仕事をしている人にインタビューをすることになりました。バスの運転士に興味のある小森さんたちは、インタビューで質問することを話し合っています。次の【話し合いの様子】と【話し合いの記録】をよく読んで、あとの問いに答えましょう。
- 【話し合いの記録】

解答の分析

無解答率0.5%

1	8.6%
2(正答)	63.2%
3	18.8%
4	8.8%
上記以外	0.1%

○誤答の「3」を選択した児童は、小森さんが、質問する内容を短い言葉で書き、線でつなぐことで質問を一つに絞っていると捉えており、質問する内容を四角で囲み、線でつなぐことでインタビューの流れを整理していると捉えることができなかったと考えられる。

この中には、【話し合いの記録】から、小森さんが短い言葉で記録していることや、線で内容をつないでいることなどの表し方を理解することはできていたが、語句と語句との関係を理解することができなかった児童がいたと考えられる。

「令和7年度【小学校国語】報告書」大問1 授業アイデア例

https://www.nier.go.jp/25chousakekkahoukoku/report/data/25plang_idea_01.pdf#page=10



結果の
ポイント

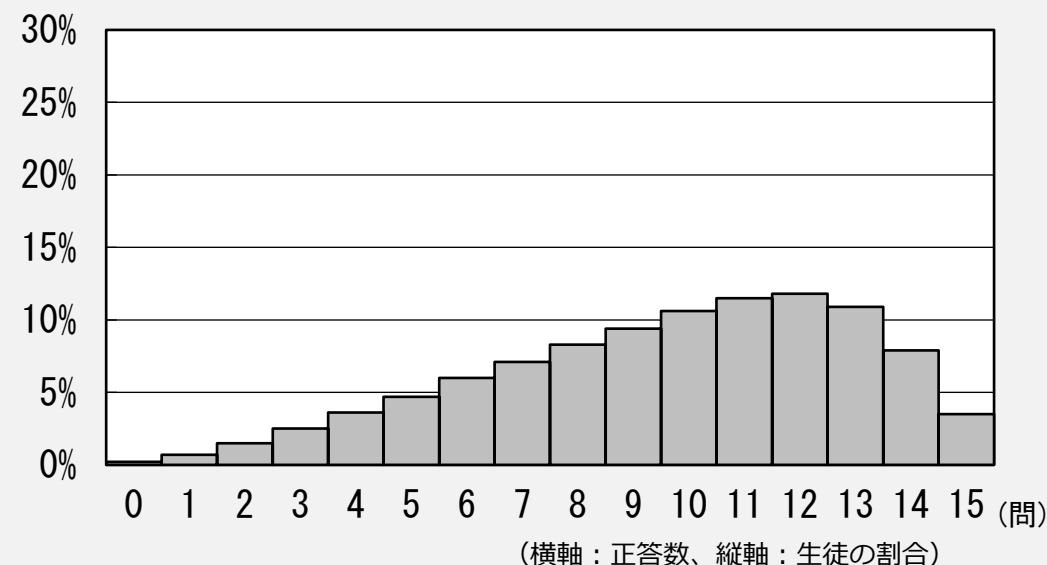
- ①【p.11】「可能の意味」を含んでいるものとして適切なものを選択する問題（大問1一）
「投げられる」を説明したものとして適切なものを選択する問題（大問1二）
助動詞の働きについて理解すること、自立語と付属語を類別することはできているが、助詞と助動詞を類別することに課題がある。
- ②【p.12】話合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する問題（大問2二）
必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることはできている。
- ③【p.13】国語辞典を参考にして、「ほうふつとさせる」と同じような内容を表す別の表現を文章中から抜き出す問題（大問4二）
語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることに課題がある。
- ④【p.14】二つの例文を比べながら、「きっぱり」が表している具体的な様子と擬態語の効果を書く問題（大問4四）
文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることに課題がある。

〈分類・区分別集計結果〉

分類		区分	対象 問題数 (問)	平均 正答率 (%)
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	5	63.3
		(2)情報の扱い方に関する事項	1	70.7
		(3)我が国の言語文化に関する事項	0	
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	64.2
		B 書くこと	3	67.7
		C 読むこと	3	60.1
評価の観点		知識・技能	6	64.5
		思考・判断・表現	9	64.0
問題形式		選択式	9	73.0
		短答式	3	56.1
		記述式	3	45.9

〈中学校国語の生徒の正答数分布グラフ〉

平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差	最頻値
9.6問/15問	64.2%	10.0問	3.3問	12問



結果のポイント

①

- ・助動詞の働きについて理解することはできている。
- ・自立語と付属語を類別することはできているが、助詞と助動詞を類別することに課題がある。

具体的な設問例

大問1ー・二

設問一：「可能の意味」を含んでいるものとして適切なものを選択する。

設問二：「投げられる」を説明したものとして適切なものを選択する。

① 二人の会話

西先生 「ら抜き言葉」とは何ですか。
「投げられる」と言ったときに、「それは「ら抜き言葉」だね。」と言われました。

竹内さん 「ら抜き言葉」とは、「できる」という可能の意味を含む「出られる」を、「出れる」のようにする言い方のことです。「投げられる」も「投げらるる」の「ら抜き言葉」に当たります。

①

解答の分析

設問一

無解答率
0.2%

正答について { 正答率 84.5% }

3 助動詞の働きについて理解することはできていると考えられる。

設問二

無解答率
0.3%

正答について { 正答率 70.3% }

4 単語の類別について理解している。「投げられる」が、動詞「投げる」と助動詞「られる」からできていることを捉えることができています。

誤答について

1	3.0%
2	5.9%
3	20.4%

○誤答例の解説

【3と解答しているもの】について：
助動詞「られる」を助詞と誤って捉えたものと考えられる。また、「られる」が付属語であることは理解できているが、助詞と助動詞との違いを理解できていないものとも考えられる。

単語の分類について、自立語と付属語を類別することはできているが、助詞と助動詞を類別することには課題がある。

- 一 竹内さんは、「二人の会話」の……線部①「可能の意味」について考えています。次の1から4までのうち、文中の——線部が「可能の意味」を含んでいるものを一つ選びなさい。
- 運動会当日の天気が案じられる。
 - 突然、友人から声を掛けられる。
 - 満腹になったが、ケーキは食べられる。
 - 米賣の方が、卒業式の会場に入られる。
- 二 竹内さんは、「二人の会話」の……線部②「投げられる」について考えています。次の1から4までのうち、「投げられる」を説明したものとして最も適切なものを一つ選びなさい。
- 「投げられる」という動詞である。
 - 「投げる」という動詞と「られる」という動詞でできている。
 - 「投げる」という動詞と「られる」という助動詞でできている。
 - 「投げる」という動詞と「られる」という助動詞でできている。

学習指導に当たって

単語の類別については、単語がその性質から自立語と付属語とに大別されること、更に幾つかの品詞に分類されることを理解することが求められている。その際、単独で文節を作ることができるか、どのような文の成分になるか、活用するかなどの分類の観点があることに生徒が気付くようにすることが大切である。

結果のポイント

②

必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることはできている。

具体的な設問例
大問2二

話し合いの中の発言について説明したものとして適切なものを選択する。

- 二 【話し合いの一部】の——線部②「例えば、「歌声に強弱がつけられていない」や「高い音の部分がうまく歌えない」は、歌の表現の仕方になりますよね。」という発言について説明したものとして「最も適切なものを、次の1から4までの中から一つ選びなさい。」
- 1 石川さんの発言の中で間違っている部分を指摘している。
 - 2 石川さんの考えと自分の考えとの相違点を明らかにしている。
 - 3 石川さんの考えに対する自分の理解が合っているかを確かめている。
 - 4 石川さんの発言に反対する意見を具体的な例を挙げながら述べている。

② 合唱コンクールの委員である山下さん、石川さん、大森さんは、学級の目標を達成するための課題についてアンケートを取り、その解決のために、出された意見をタブレット端末上で共有しながら話し合っています。次の「アンケートの結果を示した画面」を、「話し合いの一部」の「話し合いを受けて整理した画面」を読んで、あとの問いに答えなさい。

「アンケートの結果を示した画面」

② 【話し合いの一部】

「目標を達成するための課題」

- ・歌声に強弱がつけられていない。
- ・高い音の部分がうまく歌えない。
- ・歌い出しのタイミングがそろわない。
- ・練習を始めるまでに時間がかかる。
- ・練習後の振り返りのときに、意見や感想が出されない。

「話し合いを受けて整理した画面」

② 【話し合いの一部】

「目標を達成するための課題」

- ・「自分たちで取り組むこと」
- ・指揮者をよく見て、歌い出しのタイミングをそろえよう。
- ・集まったらすぐに練習を始めよう。
- ・練習後の振り返りのときに、意見や感想を積極的に出そう。

山下 先生や学級のみんなに伝える言い方になっていてよいと思います。この内容をみんなにどのように伝えるかが大切ですね。

石川 そうですね。では、この「自分たちで取り組むこと」は、学級のみんなにどのように伝えるとよいでしょうか。

大森 この画面をオンライン上の学級のページに載せるのがよいと思います。タブレット端末を見て、取り組むことをいつでも確認することができると、練習するときに気を付けることができると思います。

石川 私は、練習ごとに一つずつ取り組むことを呼びかけていくのがよいと思います。一つ一つしっかりと意識しながら練習できると思うからです。二つの意見が出ましたね。では、話し合いをまとめていきますよ。

山下 「美しい歌声を響かせよう」という目標に向けて練習するために、学級のみんなにどのように伝えたらよいでしょうか。

大森 では、このあとどうしていいかを考えましょう。私は、歌の表現の仕方に関わるものは、音楽科の先生に相談するのがよいと思います。私もそう思います。ただ、「歌い出しのタイミングがそろわない」については、指揮者をよく見てタイミングをそろえるなど、自分たちで取り組むことができそうな気がします。

山下 そうですね。では、まずは自分たちで取り組んでみましょう。

大森 賛成です。

山下 いろいろな意見が出たので、今まで話し合ったことを受けて、「音楽科の先生に相談すること」と「自分たちで取り組むこと」に整理してみました。どうでしょうか。

石川 先生や学級のみんなに伝える言い方になっていてよいと思います。この内容をみんなにどのように伝えるかが大切ですね。

大森 そうですね。では、この「自分たちで取り組むこと」は、学級のみんなにどのように伝えるとよいでしょうか。

石川 私は、練習ごとに一つずつ取り組むことを呼びかけていくのがよいと思います。一つ一つしっかりと意識しながら練習できると思うからです。二つの意見が出ましたね。では、話し合いをまとめていきますよ。

山下 「美しい歌声を響かせよう」という目標に向けて練習するために、学級のみんなにどのように伝えたらよいでしょうか。

解答の分析

無解答率 0.3%

正答について	
3	正答率 70.7%
必要に応じて質問しながら話の内容を捉えることができている	
誤答	
1	2.5%
2	10.7%
4	15.8%

（参照）「令和6年度【中学校】報告書」
pp.19-34
https://www.nier.go.jp/24chousakekkahouku/report/data/24mlang_04.pdf#page=2



指導改善のポイント

必要に応じて質問しながら話の内容を捉えるとは、何のためにどのような状況で話を聞いているのかを意識した上で、話の内容を正確に理解するために、必要に応じて分からないことや知りたいこと、確かめたいことなどを話し手に尋ねることである。話し手に質問する際には、その場の状況に応じて話の途中で質問したり、話が終わった時点で質問したりするなど、質問の適切な機会を捉えるとともに、話し手が伝えたいことを確かめたり、足りない情報を聞き出したりするなど、知りたい情報に合わせて効果的に質問することが重要である。

語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることに課題がある。

国語辞典を参考にして、「ほうふつとさせる」と同じような内容を表す別の表現を文章中から抜き出す。

無解答率 19.5%

正答例 〔正答率〕 35.5%	○「ありありと映し出している」 ○「心に思い描く」 ○「包括的に含んだイメージを得る」
誤答例	本文中から、上記 1、2 以外の表現を抜き出して、 解答しているもの …39.7% ●「ありありと」「包括的に」「イメージ」のみを 解答しているもの →【国語辞典に載っていた意味】から「はっきり」「おぼろげ」など「ほうふつ」の意味の一部だけを捉えて解答したものと考えられる。 ●「たくさんの意図を託している。」 →「ほうふつとさせる」の文脈上の意味を捉えられず、6段落から同じような内容を表す別の表現を捉えることができなかったと考えられる。

0. 201

質問内容	肯定 (%)	否定 (%)	無解答 (%)
当てはまる (12.1万人)	46.0%	42.9%	11.1%
どちらかといえば、 当てはまる (13.4万人)	36.6%	45.9%	17.5%
どちらかといえば、 当てはまらない (9.4万人)	30.3%	47.3%	22.4%
当てはまらない (7.2万人)	24.2%	44.6%	31.2%

0% 20% 40% 60% 80% 100%

■ 肯定 ■ 否定 ■ 無解答

結果のポイント

④

文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることに課題がある。

具体的な設問例 大問4四

二つの例文を比べながら、擬態語「きっぱり」が表している具体的な様子と擬態語の効果を書く。

条件①：〈例文2〉の擬態語「きっぱり」がどのような様子を表しているかを具体的に書いている。

条件②：「きっぱり」について考えたことを踏まえて、擬態語の効果について、本文中の言葉を使って書いている。

解答の分析

無解答率 18.3%

正答例
(正答率)
39.3%

○「きっぱり」は、生徒が先生に向かって、自信を持って力強く言い切っている様子を表している。このように、擬態語は話している様子の包括的なイメージを表現することができる。

誤答例

条件①は満たしているが、条件②を満たしていないもの …35.1%

●「きっぱり」という擬態語をつかうことによって生徒がたくさん練習をしてきて、発表に自信があるように感じさせる効果がある。

●誤答例の解説

〈例文2〉の擬態語「きっぱり」がどのような様子を表しているかを具体的に書くことはできているが、擬態語の効果について本文中の言葉を使って書くことができていない。本文の叙述を基に擬音語・擬態語について理解することができていないと考えられる。

指導改善のポイント

文章を読んで自分の考えを確かなものにするためには、具体的な場面を思い浮かべ、改めて生徒自身が文章をどのように捉えて精査・解釈したのかを振り返ることなどが考えられる。その際、文章に書かれている大まかな内容について自分の考えを述べることにとどまるのではなく、精査・解釈した内容を振り返らせることが重要である。

条件1 〈例文2〉の擬態語「きっぱり」がどのような様子を表しているかを具体的に書くこと。
条件2 条件1で書いたことを踏まえて、擬態語の効果について、本文中の言葉を使って書くこと。



〈具体的な場面〉

四 林さんは、本文を読んで理解したことをより深めるために、〈具体的な場面〉を思い浮かべながら、二種類の例文を書いてみました。あなたは、〈例文1〉と〈例文2〉を比べて、擬態語にはどのような効果があると考えますか。あとの条件1と条件2にしたがって書きなさい。

なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

〈例文1〉(擬態語を使っていない例文)

「いいえ。たくさん練習してきましたから大丈夫です。」
生徒は言った。

〈例文2〉(擬態語を使った例文)

「いいえ。たくさん練習してきましたから大丈夫です。」
生徒はきっぱりと言った。

「令和8年度
【中学校国語】報告書」p.69
大問4 授業アイディア例
https://www.nier.go.jp/26chousak_ekkahoukoku/report/data/26mlang_idea_04.pdf#page=12



結果のポイント

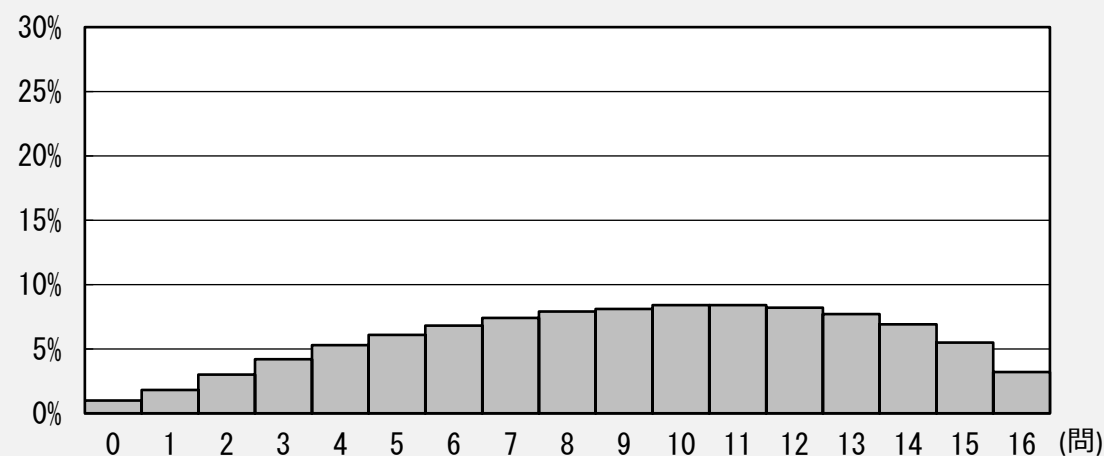
- ①【p.16】昔遊びの計画を見て、全体で使える時間の中で、「前半」に使える時間は何分間かを書く問題（大問4（2））
示された情報を基に、数量の関係に着目して、条件に合う時間を求めることはできている。
- ②【p.17】一辺が8cmの立方体の体積を求める式を書く問題（大問1（1））
立方体の体積の計算による求め方について、一定数の児童は理解できているが、課題がある。
- ③【p.18】1cm³の立方体を36個使ってできた直方体の体積を書く問題（大問1（3））
体積の意味について理解することに課題がある。
- ④【p.19】ペンギンがいる二つの広場の混み具合を求める式の意味について、正しいものを選ぶ問題（大問2（3））
単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つの広場のどちらが混んでいるのかを判断することに課題がある。
- ⑤【pp.20-21】赤いテープの長さが、白いテープの長さの1.5倍になっている図を二つ選ぶ問題（大問2（4））
基準量、比較量、割合の関係を正しく捉えることに課題がある。
- ⑥【p.22】 $\frac{5}{3}$ を表す目盛りが示された数直線上で、1を表す目盛りを選ぶ問題（大問3（4））
単位分数の個数に着目し、数直線上の1を表す目盛りを捉えることに課題がある。

〈分類・区分別集計結果〉

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均 正答率 (%)
学習指導要領の 領域	数と計算	8	61.3
	図形	4	55.5
	測定	1	78.2
	変化と関係	3	41.4
	データの活用	4	48.8
評価の観点	知識・技能	12	60.3
	思考・判断・表現	4	45.6
問題形式	選択式	5	56.2
	短答式	8	59.9
	記述式	3	48.7

〈小学校算数の児童の正答数分布グラフ〉

平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差	最頻値
9.1問/16問	56.6%	9.0問	4.0問	11問



(横軸：正答数、縦軸：児童の割合)

結果のポイント①

示された情報を基に、数量の関係に着目して、条件に合う時間を求めることはできている。

具体的な設問例 大問4(2)

昔遊びの計画を見て、全体で使える時間の中で、「前半」に使える時間は何分間かを書く。

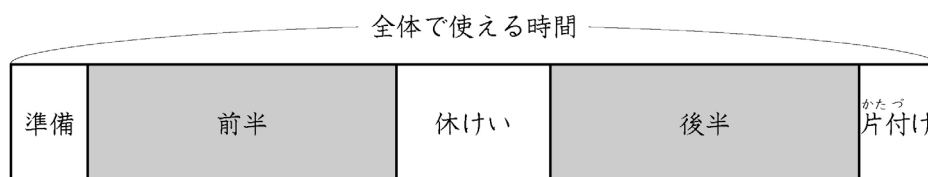
- 4 (2) さくらさんたちは、昔遊び^{たんとう}を担当することになり、下のように【昔遊びの計画】を立てました。

【昔遊びの計画】

遊び方について

- 前半と後半に、あやとり、または、かるたで遊ぶ。
- 前半と後半が、同じ遊びでもちがう遊びでもよい。

時間の使い方について



- 全体で使える時間は 60 分間。
- 準備は最初の 5 分間。
- 前半と後半の間の休けいは 10 分間。
- 片付けは最後の 5 分間。
- 前半と後半の時間は同じ。

【昔遊びの計画】を見ると、「前半」の時間は、何分間ですか。
答えを書きましょう。

解答の分析

無解答率3.4%

正答	20 と解答しているもの	78.2%
誤答	40 と解答しているもの	4.5%
	30 と解答しているもの	2.1%
	25 と解答しているもの	1.3%
	上記の4つ以外の解答	10.5%

指導改善のポイント

日常生活の中で必要になる時刻や時間を捉える際には、示された情報を解釈し、数量の関係に着目して、筋道を立てて考え、計算などの処理をして求めることができるようにすることが重要である。

クロス集計

児童質問調査 × 本設問の正答率

0.166

児童質問調査 [67] / 「5年生までに受けた授業では、図形や数直線など図が示された問題では、問題を解くときに図が役に立つと思いましたか」の各選択肢を選んだ児童の本設問における解答状況 (%)

当てはまる (51.3万人)

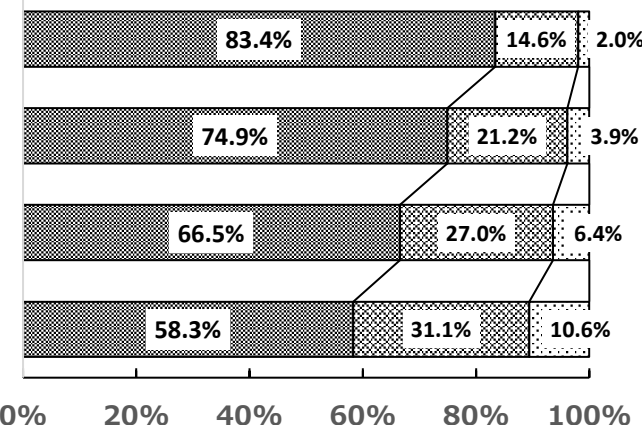
どちらかといえば、

当てはまる (29.2万人)

どちらかといえば、

当てはまらない (6.5万人)

当てはまらない (2.9万人)



■ 正答 ■ 誤答 □ 無解答 0% 20% 40% 60% 80% 100%

この質問に肯定的に回答したグループの方が、大問4(2)の正答率が高く、無解答の割合も低い。

結果のポイント②

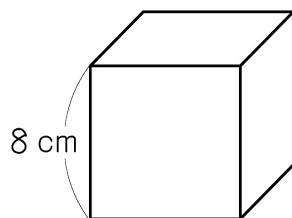
立方体の体積の計算による求め方について、一定数の児童は理解できているが、課題がある。

具体的な設問例

大問1(1)

一辺が8 cmの立方体の体積を求める式を書く。

- 1 (1) 一辺が8 cmの立方体の体積が何 cm^3 かを求める式を書きましょう。
ただし、計算の答えを書く必要はありません。



解答の分析

無解答率1.2%

正答 〔正答率 72.9%〕	$8 \times 8 \times 8$
誤答例	① $8 \times 8 \cdots 10.2\%$ ② 8×6 、 $8 \times 3 \cdots 5.5\%$
① 立方体の全ての辺が等しいことは理解しているが、誤って正方形の面積の公式を用いていると考えられる。面積や体積の理解に課題があると考えられる。 ② 立方体の特徴を、体積の計算の求め方に結び付けることができていないと考えられる。	

関連する過去の問題

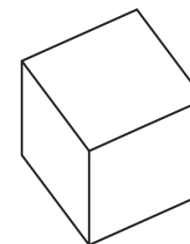
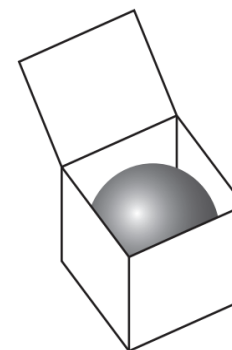
令和6年度3(3)

直径22cmの球がぴったり入る立方体の体積を求める式を書く。

- 3 (3) 直径22 cmの球の形をしたボールがあります。



このボールがぴったり入る立方体の形をした紙の箱の体積を調べます。



この立方体の形をした紙の箱の体積が何 cm^3 かを求める式を書きましょう。
ただし、紙の厚さは考えないものとします。また、計算の答えを書く必要はありません。

正答率	球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことに課題が見られた。
36.9%	深い理解を伴う知識の習得ができておらず、体積の単位とこれまでに学習した球の直径の長さや立方体を構成する要素との関係を考察できていないと考えられる児童がいた。



令和6年度調査では立方体の一辺の長さが示されておらず、球の直径を基に立方体の一辺の長さを捉える必要があったのに対し、本設問は、立方体の一辺の長さが示された上で立方体の体積を求める式を書くことができるかどうかをみる問題を出題した。

結果のポイント③

体積の意味について理解することに課題がある。

具体的な設問例 大問1(3)

1 cm³の立方体を36個使ってできた直方体の体積を書く。

- 1 (3) 1 cm³の立方体が36個あります。36個をすべて使って、高さが4 cmの直方体を1つ作りました。その直方体の体積は何 cm³ですか。
答えを書きましょう。

解答の分析

無解答率4.2%

正答	36 と解答しているもの	40.4%	○誤答例の解説
誤答	144 と解答しているもの	19.9%	
	9 と解答しているもの	14.2%	
	4 と解答しているもの	1.4%	
	36、144、4 以外で4の倍数を解答しているもの	15.1%	
	上記の5つ以外の解答	4.8%	

○誤答例の解説

「144」「9」「36、144、4以外の4の倍数」を解答している児童は、36や高さの数である4を使った計算の答えなどを体積としていと考えられる。

体積は単位体積の立方体の幾つ分で表すことができることを理解することに課題があると考えられる。

指導改善のポイント

体積も面積などと同じように、単位の大きさを決めるとその幾つ分として数値化して捉えることができることを理解できるようにすることが大切である。また、体積は1 cm³の幾つ分として表すことができることや、立体の形が違ってても体積は同じであることを理解できるようにすることが大切である。

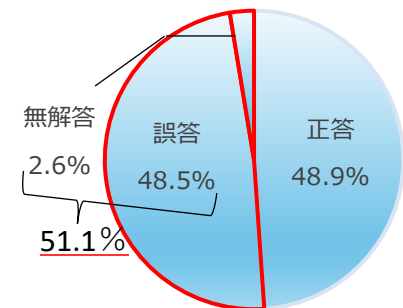
クロス集計

大問1(1) × 大問1(3)

立方体の体積の計算による求め方について理解しているかをどうかを問う[大問1(1)]と体積の意味について理解しているかをどうかを問う[大問1(3)]のクロス集計 (*数値は%)

		大問1(3)			
		正答	誤答	無解答	合計
大問1(1)	正答	35.7	35.4	1.9	72.9
	誤答	4.7	19.6	1.5	25.8
	無解答	0.1	0.3	0.8	1.2
	合計	40.4	55.4	4.2	100.0

大問1(1)が正答の場合(72.9%)の
大問1(3)の正答・誤答・無解答の割合



立方体の体積の計算による求め方について理解できている児童の約半数は、体積の意味については理解できていない(51.1%)。

結果のポイント④

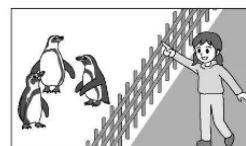
単位量当たりの大きさを求める除法の式の意味を理解し、その商から二つの広場のどちらの方が混んでいるのかについて判断することに課題がある。

具体的な設問例 大問2(3)

ペンギンがいる二つの広場の混み具合を求める式の意味について、正しいものを選ぶ。

2

- (3) AとBの2つのペンギンの広場があります。
下の表は、広場にいるペンギンの数と広場の面積を表しています。



広場にいるペンギンの数と広場の面積

	ペンギンの数(羽)	面積(m ²)
A	10	20
B	12	30

ことねさんは、どちらの広場の方がこんでいるのかを調べるために、下の計算をしました。

【ことねさんの計算】

$$A \quad 10 \div 20 = 0.5$$

$$B \quad 12 \div 30 = 0.4$$

【ことねさんの計算】をもとに、どちらの広場の方がこんでいるのかについて、下のようにまとめます。

下のアとイ、ウとエの中から、正しいものをそれぞれ選んで、その記号を書きましょう。

【ことねさんの計算】は

ア | m²あたりのペンギンの数
イ | 羽あたりの面積

を求めています。

商を比べると

ウ 商が大きいAの広場
エ 商が小さいBの広場

の方がこんでいることがわかります。

解答の分析

無解答率1.6%

正答 [正答率36.2%]

ア・ウ

誤答例

ア・エ・・・13.7% イ・ウ・・・23.9%
イ・エ・・・22.8%

示された除法の式が1 m²あたりのペンギンの数を求めているのか、ペンギン1羽あたりの面積を求めているのかを判断することに課題があると考えられる。

約半数の児童がイを選んでおり、示された式がペンギン1羽あたりの面積を求めていると誤って捉えている。

指導改善のポイント

二つの数量の関係に着目し、異種の二つの量の割合として捉えられる数量の関係について考察できるようにすることが重要である。

指導に当たっては、異種の二つの量を比べる場合、どちらか一方の量をそろえる必要があることに気付くことができるようにすることが大切である。そのうえで、図や数直線などを用いて、単位量当たりの大きさを求める式の意味について理解できるようにすることが大切である。さらに、単位量当たりの大きさの意味を理解し、単位量当たりの大きさから混み具合などを判断できるようにすることが大切である。

「令和8年度【小学校算数】報告書」 大問2 授業アイディア例

https://www.nier.go.jp/26chousakekkahoukoku/report/data/26math_idea_02.pdf#page=15



結果のポイント⑤

基準量、比較量、割合の関係を正しく捉えることに課題がある。

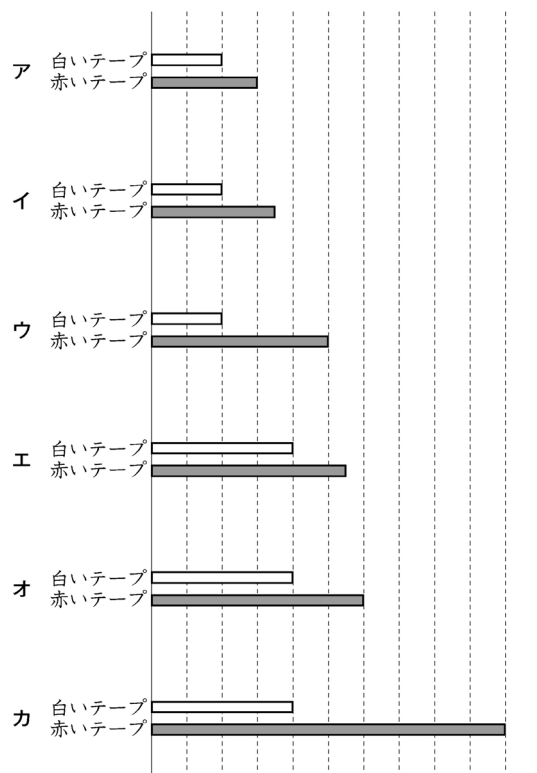
具体的な設問例 大問2 (4)

赤いテープの長さが、白いテープの長さの1.5倍になっている図を二つ選ぶ。

2

(4) 赤いテープの長さが、白いテープの長さの1.5倍になっている図はどれですか。

下の ア から カ までのの中から2つ選んで、その記号を書きましょう。



解答の分析

無解答率1.5%

正答 [正答率 34.5%]

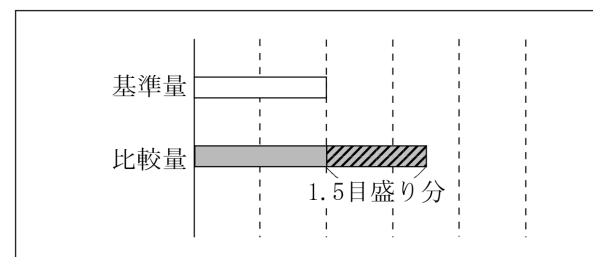
ア・オ

誤答例

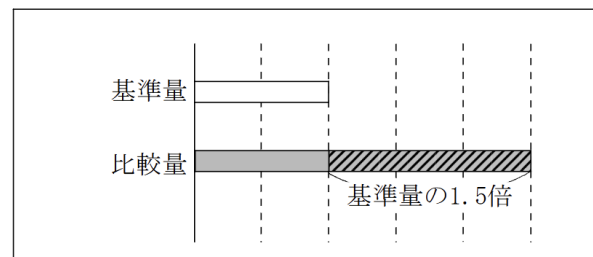
イ・エ・・・35.7%

ウ・カ・・・10.2%

イ・エを選んでいる児童は、基準量の1.5倍に当たる比較量を、下のように基準量より1.5目盛り分多い量であると誤って捉えていると考えられる。



ウ・カを選んでいる児童は、基準量の1.5倍に当たる比較量を、下のように基準量と基準量の1.5倍を合わせた量であると誤って捉えていると考えられる。



指導改善のポイント

基準量とその2倍や3倍に当たる量と比較することを通して、基準量の1倍や1.5倍、2.5倍の意味を理解できるようにすることが大切である。また、基準量の大きさを変えたとき、基準量の1.5倍に当たる量は、基準量を1と見たときに1.5に当たる量であることを捉え、割合についての理解を深めることができるようにすることが大切である。

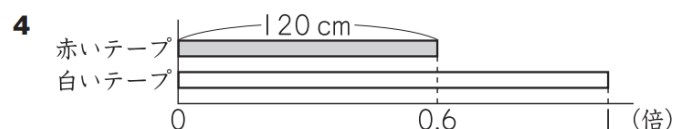
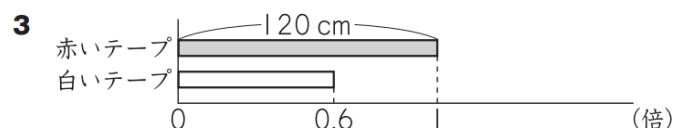
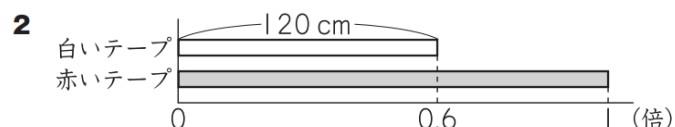
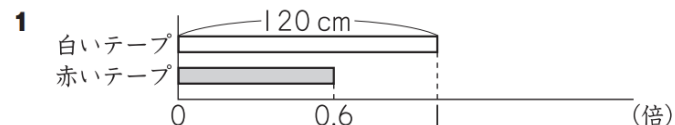
関連する過去の問題 平成24年度A3 (1)

場面と図とを関連付けて、二つの数量の関係を理解しているかどうかをみるものである。ここでは、基準量（基準にする大きさ）、比較量（割合に当たる大きさ）、割合を図と対応させることが求められる。

3 赤いテープと白いテープの長さについて、次のことがわかっています。

赤いテープの長さは120 cmです。
赤いテープの長さは、白いテープの長さの0.6倍です。

(1) 赤いテープと白いテープの長さの関係を正しく表している図はどれですか。
次の 1 から 4 までのの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。



解答の分析

正答例
(正答率 34.3%)

4

誤答例

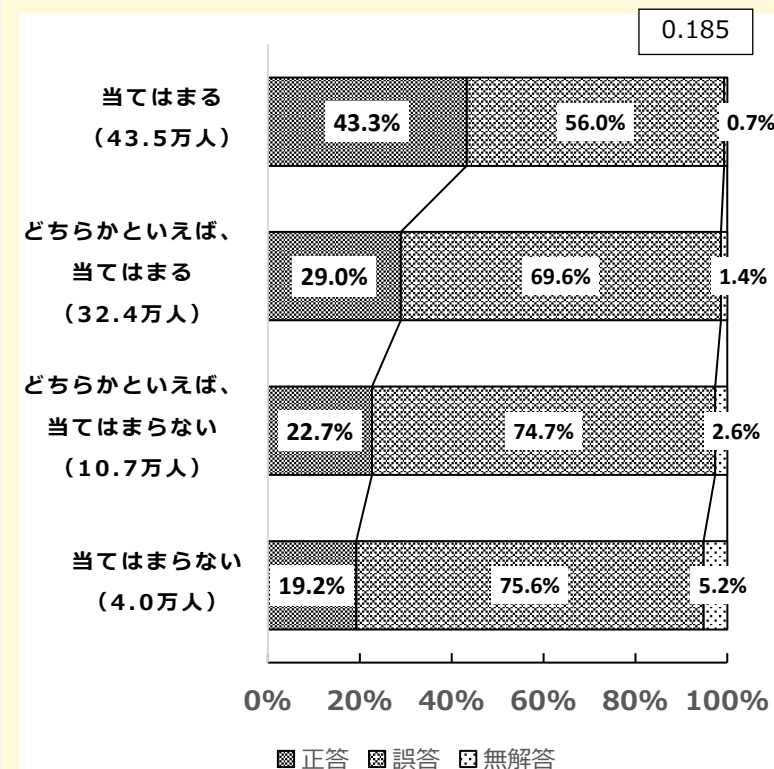
3

○誤答例の解説

赤いテープの長さは120cmであることは捉えているが、赤いテープの長さ が 1 に当たる大きさになると考え、白いテープの長さが赤いテープの長さの0.6倍になると捉えている。

クロス集計 児童質問調査 × 大問2 (4) の正答率

児童質問調査 [64] / 「5年生までに受けた授業では、算数の授業で学習したことを、普段の生活の中で活用できていましたか」の各選択肢を選んだ児童の本設問における解答状況 (%)



この質問に肯定的に回答したグループの方が、大問2 (4) の正答率が高く、無解答率も低い。

結果のポイント⑥

単位分数の個数に着目し、数直線上の1を表す目盛りを捉えることに課題がある。

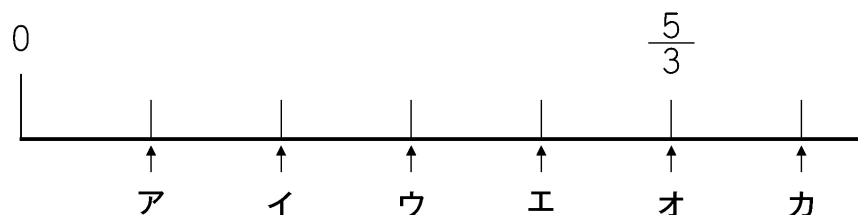
具体的な設問例 大問3(4)

$\frac{5}{3}$ を表す目盛りが示された数直線上で、1を表す目盛りを選ぶ。

3 (4) 次の数直線で **オ** の目もりは $\frac{5}{3}$ です。

1を表す目もりはどこですか。

下の **ア** から **カ** までの中から1つ選んで、その記号を書きましょう。



解答の分析

無解答率2.7%

正答 [正答率 **68.4%**]

ウ

誤答例

ア・・・15.4% イ・・・6.6%

アを選んだ児童は、誤って数直線上の1番目の目盛りを1と捉えていると考えられる。

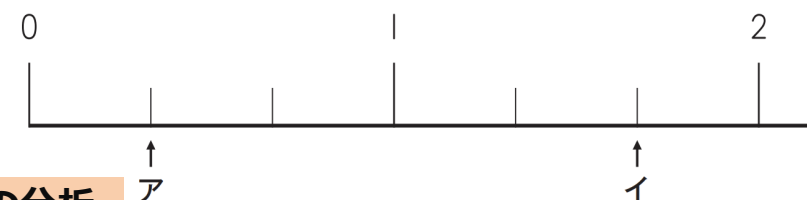
指導改善のポイント

数直線上の目盛りの一つ分の大きさや単位分数の個数に着目して、数直線上の目盛りを分数で表すことで、分数の意味や表し方について理解を深めることができるようにすることが重要である。目盛り一つ分を $\frac{1}{3}$ と捉え、 $\frac{1}{3}$ の五つ分で $\frac{5}{3}$ であることに気付くことができるようにすることが大切である。

関連する過去の問題 令和7年度3(3)

数直線上で、1の目盛りに着目し、分数を単位分数の幾つ分として捉えることができるかどうかをみる。

3 (3) 次の数直線の**ア**、**イ**の目もりが表す数を**分数**で書きましょう。



解答の分析

正答
[正答率 35.4%]

ア： $\frac{1}{3}$ イ： $\frac{5}{3}$ 又は $1\frac{2}{3}$

1目盛りに着目し数直線上の分数を捉えることに課題があった。

誤答例

イを $\frac{5}{6}$ 又は $\frac{2}{3}$ と解答

令和7年度調査は0から2までが6等分されており、1が示されている数直線から $\frac{1}{3}$ や $\frac{5}{3}$ に当たる目盛りを答える問題において課題が見られたため、本設問では出題の観点を变えて、0から $\frac{5}{3}$ までが5等分されている数直線から1($\frac{3}{3}$)を表す目盛りを選択する問題を出題した。

結果の
ポイント

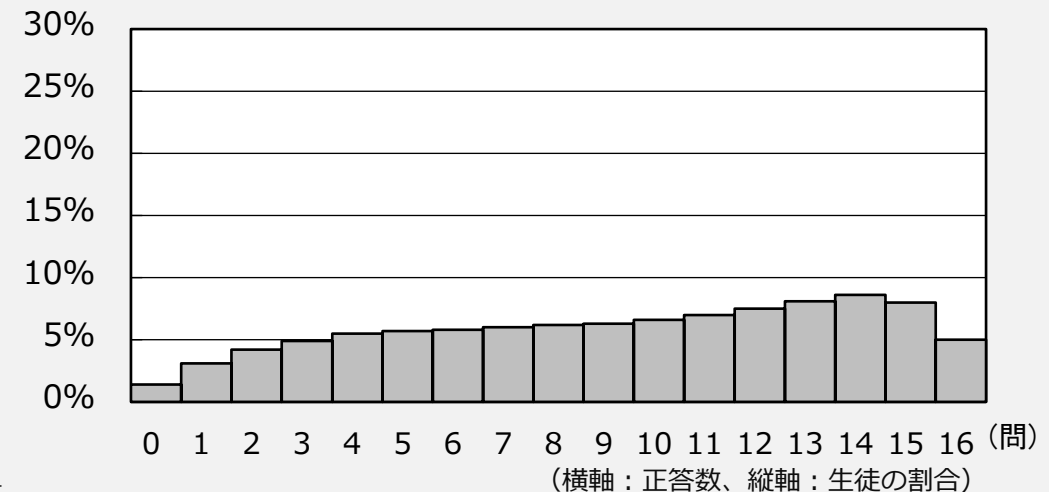
- ①【p.24】 学年別睡眠時間の箱ひげ図から読み取れることとして正しいものを選ぶ問題（大問9（2））
箱ひげ図と四分位数の対応について理解することができている。
- ②【p.25】 2直線が平行になるための条件を理解しているかどうかをみる問題（大問3）
2直線が平行になるための条件の理解や、2直線が平行であるかどうかを判断する際に着目すべき二つの角を見いだすことに課題がある。
- ③【p.26】 証明する事柄における仮定となる辺や角の関係を選ぶ問題（大問8（3））
作図によってできた図形と作図の操作を関連付けて、証明すべき事柄の仮定となる辺や角の関係を見いだすことに課題がある。
- ④【p.27】 手順にしたがってできたAとBについて、「 $A - B$ 」の値がどんな数になるかを、選んだ2数の差に着目して説明する問題（大問6（3））
問題の条件を変えた場合について、元の問題を解決した過程や結果を振り返りながら、成り立つ事柄を予想し、その事柄を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。
- ⑤【p.28】 データ量が1000MBになるときの動画の時間がおよそ何秒になるかを求める方法を説明する問題（大問7（2））
数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。

〈分類・区分別集計結果〉

分類	区分	対象 問題数 (問)	平均 正答率 (%)
学習指導要領の 領域	数と式	5	68.1
	図形	4	49.2
	関数	3	55.3
	データの活用	4	53.8
評価の観点	知識・技能	12	63.3
	思考・判断・表現	4	39.6
問題形式	選択式	3	59.6
	短答式	9	64.6
	記述式	4	39.6

〈中学校数学の生徒の正答数分布グラフ〉

平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差	最頻値
9.2問/16問	57.4%	10問	4.5問	14問



結果のポイント①

箱ひげ図と四分位数の対応について理解することができている。

具体的な設問例
大問9 (2)

学年別睡眠時間の箱ひげ図から読み取れることとして正しいものを選ぶ。

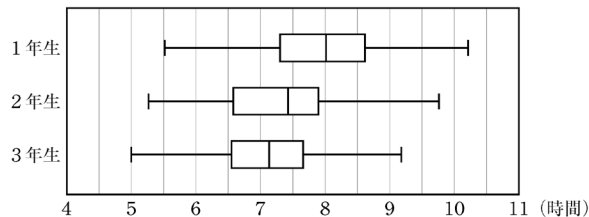
〈日常生活からの場面設定〉

- ⑨ 保健委員の桃音さんと悠真さんは、自分たちの学校の生徒の睡眠時間の特徴について、保健だよりで報告することにしました。そこで、全校生徒300人を対象に、ある日の起床時刻と就寝時刻を調査し、睡眠時間を調べました。

次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

- (2) 二人は、学年によって睡眠時間の分布の傾向にどのような違いがあるか気になりました。そこで、次のような箱ひげ図に表して、学年別の睡眠時間の分布の傾向を調べることにしました。

学年別睡眠時間の箱ひげ図



学年別睡眠時間の箱ひげ図から、次のことがわかります。

- 1年生は、**I** がおよそ8時間であることがわかる。
 2年生と3年生は、**II** が7.5時間以上8時間未満の値であることがわかる。
 よって、睡眠時間が8時間未満の生徒の割合は、1年生より2年生と3年生の方が大きい。

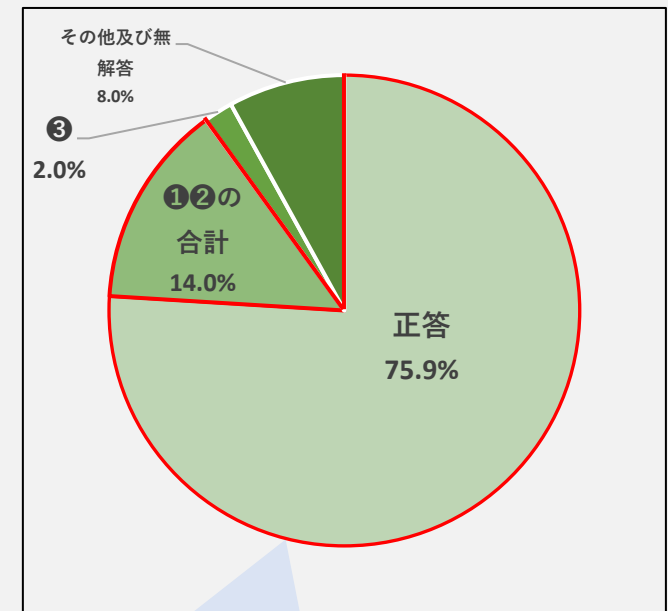
上の **I**、**II** のそれぞれに当てはまる言葉を、下のアからオまでの中から1つずつ選びなさい。

- ア 最小値 イ 最大値 ウ 中央値
 エ 第1四分位数 オ 第3四分位数

解答の分析

無解答率0.7%

正答 (正答率) 75.9%	I をウ、II をオと解答しているもの
誤答例	① I をウ、II をエと解答 …4.6%
	② I をウ、II をエ以外、または無解答 …9.4%
	③ I をウ以外、または無解答であり、II をオと解答 …2.0%
○誤答例の解説 ①②の反応率の合計は14.0%であり、箱ひげ図と中央値の対応について理解できているが、第3四分位数との対応について理解できていない生徒がいると考えられる。	



約9割の生徒が中央値については理解ができているといえる。

指導改善のポイント

複数の集団のデータの分布に着目し、その傾向を比較して読み取る活動、具体的には、箱ひげ図に表して複数の集団のデータの分布の傾向を比較したり、四分位数などを読み取ったりする活動を通して、箱ひげ図の必要性和意味の理解を深めることができるように指導することが大切である。

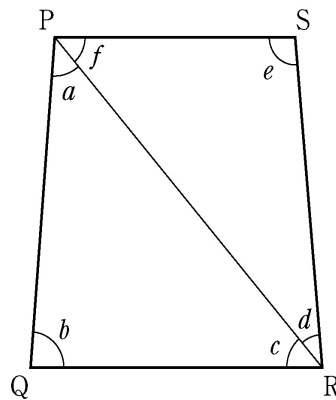
結果のポイント②

2 直線が平行になるための条件の理解や、2 直線が平行であるかどうかを判断する際に着目すべき二つの角を見いだすことに課題がある。

具体的な設問例
大問3

2直線が平行になるための条件を理解しているかどうかをみる。

③ 下の図は、四角形 PQRS に対角線 PR をひいたものです。



上の図において、 $\angle a$ から $\angle f$ までの 6 つの角のうち、ある 2 つの角の大きさが等しければ、 $PS \parallel QR$ であるといえます。その 2 つの角を書きなさい。

解答の分析

無解答率 2.8%

正答 (正答率) 49.6%	$\angle c$ と $\angle f$ を解答しているもの
誤答例	① $\angle b$ と $\angle e$ を解答しているもの ……24.2% ② $\angle a$ と $\angle d$ 、 $\angle b$ と $\angle e$ 以外を解答しているもの ……20.3%
○誤答例の解説 ① 錯角が等しければ 2 直線が平行であることと平行四辺形の向かい合う角が等しいことを混同し、四角形において一組の向かい合う角が等しいならば 2 直線は平行であると捉えている生徒がいると考えられる。 ② この中には、「 $\angle a$ と $\angle c$ 」、「 $\angle d$ と $\angle f$ 」という解答がみられた。そのように解答した生徒の中には、錯角の位置にある二つの角を正しく捉えることができていない生徒がいると考えられる。	

指導改善のポイント

2 直線が平行であるかどうかを判断する活動を取り入れ、2 直線が平行になるための条件についての理解を深めることができるように指導することが大切である。

また、平行四辺形について学習した後に、「四角形 PQRS において、 $\angle b = \angle e$ ならば $PS \parallel QR$ である」ことが常に成り立つかどうかについて考察する活動を取り入れることも考えられる。

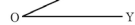
結果のポイント③

作図によってできた図形と作図の操作を関連付けて、証明すべき事柄の仮定となる辺や角の関係を見いだすことに課題がある。

具体的な設問例 大問8 (3)

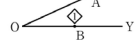
証明する事柄における仮定となる辺や角の関係を選ぶ。

- 【8】 下の手順で、鋭角である $\angle XOY$ の2倍の大きさの角が作図できます。



手順

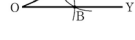
- ① 辺OX上に適当な点A、辺OY上に適当な点Bをとる。



- ② 点Aを中心として半径ABの円をかく。



- ③ 点Oを中心として半径OBの円をかき、②の円との交点をPとする。



- ④ 直線OPをひく。



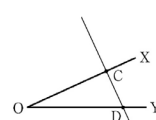
上の手順で作図した $\angle POB$ は、 $\angle XOY$ の2倍の大きさになります。

次の(1)から(3)までの各問いに答えなさい。

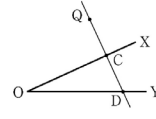
- (3) 13ページの手順で示した作図とは違う方法で、 $\angle XOY$ の2倍の大きさの角を作図する方法を考えます。

方法

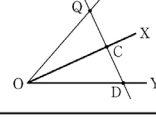
- ① 辺OX上に適当な点Cをとり、点Cを通る辺OXの垂線をひき、辺OYとの交点をDとする。



- ② 直線CD上に線分CDと線分CQの長さが等しくなるように、辺OXに対して点Dと反対側に点Qをとる。

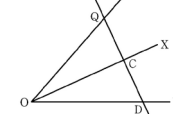


- ③ 直線OQをひく。



次の図2は、前ページの方法によって作図したものです。この図2において、 $\angle QOD$ が $\angle XOY$ の2倍の大きさであること、つまり $\angle COD = \angle COQ$ であることの証明を考えます。

図2



そこで、方法①、②のそれぞれから直接わかることを仮定とし、証明することが次のように表します。

図2において、
□ I、□ II ならば $\angle COD = \angle COQ$ である。

上の□ I には、図2において方法①から直接わかること、
□ II には、図2において方法②から直接わかることが入ります。
□ I、□ II のそれぞれに当てはまるものを、下のアからオまでのの中から1つずつ選びなさい。

- ア $CD = CQ$
イ $OD = OQ$
ウ $\angle ODC = \angle OQC$
エ $\angle COD = \angle COQ$
オ $OX \perp CD$

解答の分析

無解答率1.0%

正答 〔正答率〕 37.5%	I をオ、II をアと解答しているもの
誤答例	① I について誤答または無解答 …56.8% ② II について誤答または無解答 …54.7% ※ I II ともに無解答は含まない

○誤答例の解説

- ①方法①の「点Cを通る辺OXの垂線をひき、辺OYとの交点をDとする」という操作と「 $OX \perp CD$ 」を関連付けることができなかった生徒がいると考えられる。
- ②方法②の「線分CDと線分CQの長さが等しくなるように点Qを取る」という操作と「 $CD = CQ$ 」を関連付けることができなかった生徒がいると考えられる。

指導改善のポイント

図形の性質を証明する場面において、与えられた条件や示された図から証明する事柄の仮定と結論を明らかにし、数学的に表現できるように指導することが大切である。

授業アイディア例

「令和8年度【中学校数学】報告書」 大問8 授業アイディア例

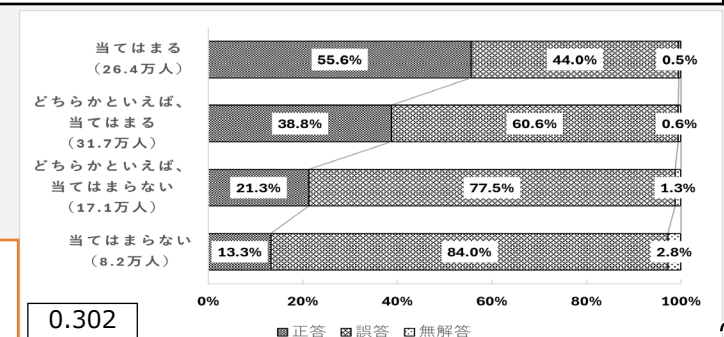
https://www.nier.go.jp/26chousakekkahoukoku/report/data/26mmath_idea_08.pdf#page=11



クロス分析

生徒質問調査〔67〕
「文字式を用いた説明や図形の証明を読んで、かかれていることを理解することができる」の各選択肢を選んだ生徒の本設問における解答状況(%)

この質問に肯定的に回答したグループの方が、大問8(3)の正答率が高い。



結果のポイント④

問題の条件を変えた場合について、元の問題を解決した過程や結果を振り返りながら、成り立つ事柄を予想し、その事柄を数学的な表現を用いて説明することに課題がある。

具体的な設問例 大問6(3)

手順にしたがってできたAとBについて、 $A - B$ の値がどんな数になるかを、選んだ2数の差に着目して「〇〇は、△△になる。」という形で説明する。
(正答の条件) 次の(a)、(b)について記述していること
(a) 〇〇が、「 $A - B$ の値」である。
(b) △△が、「選んだ2数の差の91倍」である。

⑥ 次の手順で、2つの3けたの自然数をつくります。

手順

- ◇ 1から9までの自然数の中から異なる2つの数を選ぶ。それを「選んだ2数」と呼ぶ。(例: 1と2)
- ◇ 選んだ2数の大きい方を百の位と一の位とし、小さい方を十の位としてできた3けたの自然数をAとする。(例: 212)
- ◇ 選んだ2数の小さい方を百の位と一の位とし、大きい方を十の位としてできた3けたの自然数をBとする。(例: 121)

陸斗さんと夏帆さんは、上の手順にしたがってできたAとBについて、 $A + B$ の値がどんな数になるかを調べました。

選んだ2数が1と2のとき、Aは212、Bは121となり、
 $A + B = 212 + 121 = 333 = 111 \times 3 = 111 \times (1 + 2)$

選んだ2数が3と5のとき、Aは535、Bは353となり、
 $A + B = 535 + 353 = 888 = 111 \times 8 = 111 \times (3 + 5)$

選んだ2数が2と7のとき、Aは727、Bは272となり、
 $A + B = 727 + 272 = 999 = 111 \times 9 = 111 \times (2 + 7)$

これらの結果から、陸斗さんは次のように予想しました。

陸斗さんの予想

手順にしたがってできたAとBについて、 $A + B$ の値は、選んだ2数の和の111倍になる。

(3) 7ページの陸斗さんの予想がいつでも成り立つことを文字を用いて説明した陸斗さんと夏帆さんは、次に、手順にしたがってできたAとBについて、 $A - B$ の値がどんな数になるかを考えることにしました。

選んだ2数が1と3のとき、 $A - B = 313 - 131 = 182$
選んだ2数が4と7のとき、 $A - B = 747 - 474 = 273$
選んだ2数が5と9のとき、 $A - B = 959 - 595 = 364$

二人は、 $A - B$ の値について話し合っています。

夏帆さん「182、273、364は、どんな数なのかな。」
陸斗さん「例えば364は、選んだ2数の5と9の差である4と関係があるかもしれないね。」
夏帆さん「選んだ2数の差の何倍かになっていないかな。」

手順にしたがってできたAとBについて、 $A - B$ の値は、選んだ2数の差に着目すると、どんな数になると予想できますか。7ページの陸斗さんの予想のように、下の□に当てはまることから「は、……になる。」という形で書きなさい。

手順にしたがってできたAとBについて、

解答の分析

無解答率26.1%

正答例
正答率
45.2%

$A - B$ の値は、選んだ2数の差の91倍になる。

誤答例

① 条件(a)について記述し、成り立たない事柄を記述しているもの
…7.6%

○誤答例の解説

①選んだ2数の差「 $A - B$ 」の値に着目することはできているが、「 $A + B$ 」の値について考察した過程と関連付けることができず、□×(選んだ2数の差)の□の値を見いだすことができなかったと考えられる。

また、①以外では、「 $A - B$ の値は、選んだ2数の91倍になる。」という解答も見られた。このように記述した生徒は、「〇〇は、△△になる。」という形で記述しているが、△△を「選んだ2数の差の91倍」のように的確に表現することができなかったと考えられる。

指導改善のポイント

数の性質について、成り立つ事柄を予想し、その特徴を数学的に説明できるように指導することが大切である。

数学の事象から問題を見だし、その問題を解決する活動を通して、解決された問題やその解決過程を振り返り、問題の前提を変えた場合にどうなるかを考えるなど、統合的・発展的に考察出来るようにすることが大切である。

授業アイディア例

☞「令和8年度【中学校数学】報告書」
大問6 授業アイディア例

https://www.nier.go.jp/26chousakekkahoukoku/report/data/26mmath_idea_06.pdf#page=9



結果のポイント⑤

数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することに課題がある。

具体的な設問例 大問7(2)

データ量が1000MBになるときの動画の時間がおよそ何秒になるかを求める方法を x や y を使って記述して説明する。

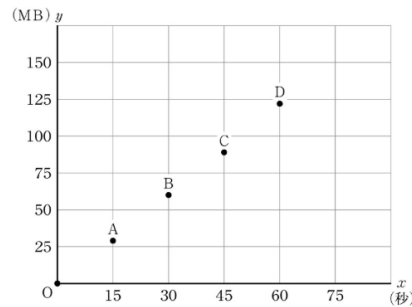
- ⑦ 光希さんのクラスでは、クラス紹介の動画を撮影することになりました。撮影する動画のデータ量は1000MBまでにすることになっています。

そこで、動画の時間によってデータ量がどのように変わるかを調べるために、同じ撮り方で時間だけを変えて動画を撮影し、動画の時間とそのデータ量を記録しました。そして、動画の時間が x 秒のときのデータ量を y MBとして、次のように表にまとめ、下のグラフに表しました。



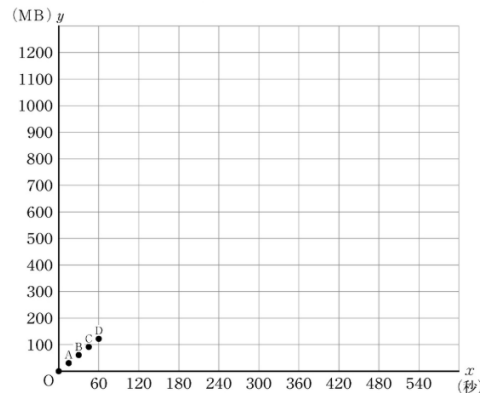
調べた結果

x (秒)	0	15	30	45	60
y (MB)	0	29	60	89	122



- (2) 光希さんは、1000MBのデータ量で撮影できる動画の時間を調べるために、前ページの調べた結果を下のグラフに表しました。

動画の時間とデータ量のグラフ



動画の時間とデータ量のグラフにおいて、原点Oから点Dまでの点が一直線上にあるとし、動画の時間を長くしても、動画の時間とデータ量の値の組を座標とする点と同じ直線上にあると考えます。このとき、データ量が1000MBになるときの動画の時間はおおよそ何秒になるかを求める方法を、 x 座標や y 座標、 x の値や y の値など、 x や y を使って説明しなさい。ただし、実際に時間がおおよそ何秒になるかを求める必要はありません。

指導改善のポイント

数学的な説明ができるようになるために、まずは、問題解決の見通しを立てる場面において、自分の考えた解決の方法を表現してみることや、問題解決を振り返る場面において、どのような方法で解決したのかをまとめてみるのが大切である。そのような活動を繰り返し行う中で、表現が不十分な説明を取り上げるなどして、より洗練された表現に高めていくことが考えられる。

学習活動の例

「令和8年度【中学校数学】報告書」 大問7 学習活動の例
https://www.nier.go.jp/26chousakekkahoukouku/report/data/26mmath_idea_07.pdf#page=8



解答の分析

無解答率39.0%

正答の条件

正答例

正答率
34.5%

<グラフを用いる場合>

次の(a)、(b)について記述しているもの。
 (a) 直線のグラフを利用すること。
 (b) y 座標が1000のときの x 座標を読むこと。

・原点Oから点Dをもとに、直線のグラフをかき、 y 座標が1000のときの x 座標を読む。

<式を用いる場合>

次の(c)、(d)について記述しているもの。
 (c) 比例の式又は一次関数の式を求めて利用すること。
 (d) $y = 1000$ を代入して、 x の値を求めること。

・ x と y の関係を比例の式で表し、その式に $y = 1000$ を代入し、 x の値を求める。

<表や数値を用いる場合>

次の(e)、(f)について記述しているもの。
 (e) 表や数値を用いて割合を求めて利用すること。
 (f) データ量が1000MBのときの動画の時間を算出すること。

・表の x と y の数値から比例定数を調べ、その比例定数で y の値が1000になるときの x の値を求める。

誤答例

・点Oと点Dを直線で結んで求める。
 ・ x と y の関係を比例の式で表す。
 ・1MBあたりの動画の時間を求める。

○誤答例の解説

誤答例のように、グラフ、式、表や数値を用いることについて記述しているが、その用い方を明示して説明することができなかった生徒が14.3%いた。

結果の
ポイント

＜聞くこと＞【p.33】学校見学についての説明を聞き、行くべき場所を選択する問題（問題3）
日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることはできている。

＜読むこと＞【p.34】誕生日パーティーに関するメールを読み、最も適切な時刻を選択する問題（問題7）
日常的な話題について、目的に応じて、必要な情報を読み取ることはできている。

＜書くこと＞

【pp.37-38】インターネットの使用に関して読んだことについて、考えとその理由を書く問題（問題10（2））
社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことに課題がある。

【p.39】与えられた情報に基づいて、留学生の昨日の出来事を説明する英文を書く問題（問題11①②）
音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して書くことに課題がある。

＜話すこと＞

【p.42】電話でのやり取りの中で、遊ぶ約束をしている留学生に明日の天気を伝える問題（問題15（1））
未来表現（will）などの知識を活用して話すことに課題がある。

【pp.43-44】留学生と一緒にしたいことを1つ取り上げ、その理由を話す問題（問題16）
日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことに課題がある。

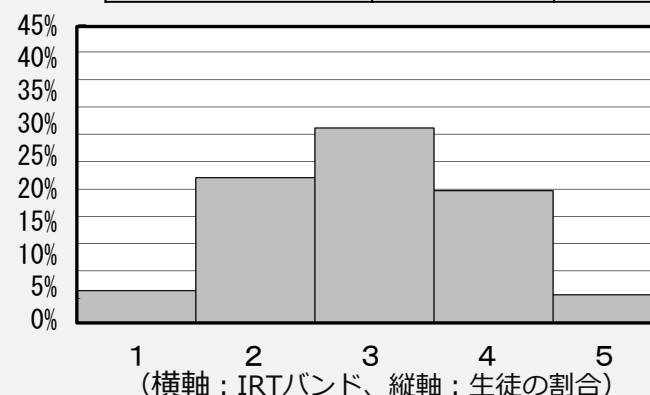
＜分類・区分別集計結果＞非公開問題を除く

分類	区分	※対象問題数 (問)
学習指導要領の 領域	聞くこと	5
	読むこと	5
	話すこと [やり取り]	3
	話すこと [発表]	4
	書くこと	6
評価の観点	知識・技能	7
	思考・判断・表現	16
問題形式	選択式	10
	短答式／口述式	5
	記述式／口述式	8

＜中学校英語の生徒分布グラフ＞

全国（国公私）英語4技能「聞くこと」「読むこと」「書くこと」「話すこと」の結果

平均IRTスコア	標準偏差	パーセンタイル値		
		25%	50%	75%
499	108.1	422	498	575



IRT バンド	全国（国公私立）	
	生徒数	割合(%)
5	2,674	5.7
4	11,518	24.7
3	16,869	36.2
2	12,620	27.1
1	2,964	6.4

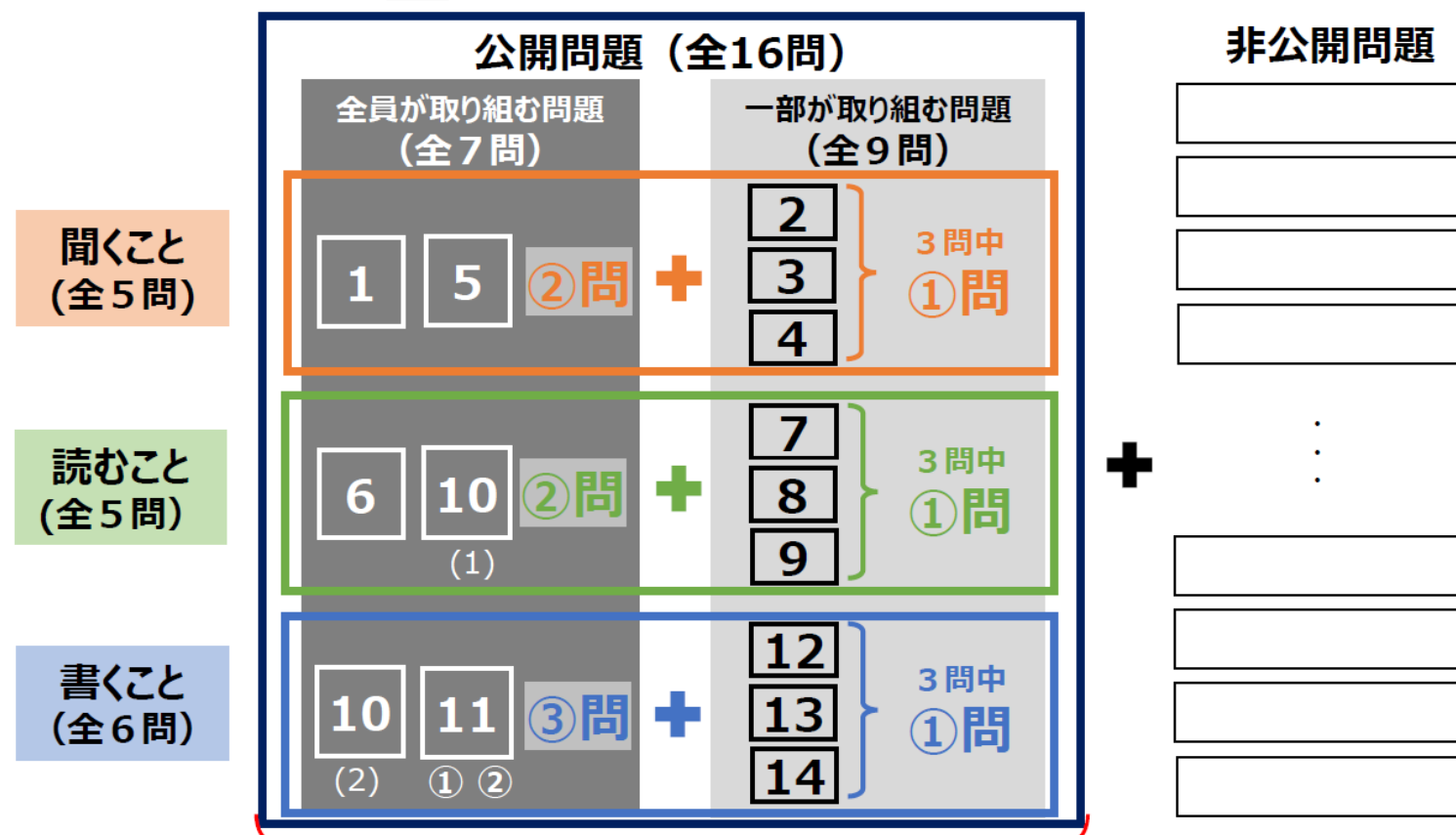
CBT問題の構成

- 公開問題と非公開問題を組み合わせて構成。
- 公開問題には調査対象の生徒全員が取り組む問題と一部の生徒が取り組む問題があり、いずれの問題でも授業改善に向けたメッセージを発信。
- 一部の生徒が取り組む問題については、同じ学校でも当該問題に取り組む生徒と取り組まない生徒がいるが、学校の生徒全員ですべての公開問題に取り組むことができる設計としている。
- 非公開問題は幅広い内容・難易度等の問題を出題しており、生徒ごとに異なる問題を解く。

「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の構成

下の **1** ～ **14** は、調査問題の番号に相当

※ 出題順序は下記のとおりではない。



生徒一人が解く問題数

公開問題

⑩問

+

非公開問題

⑫問

=

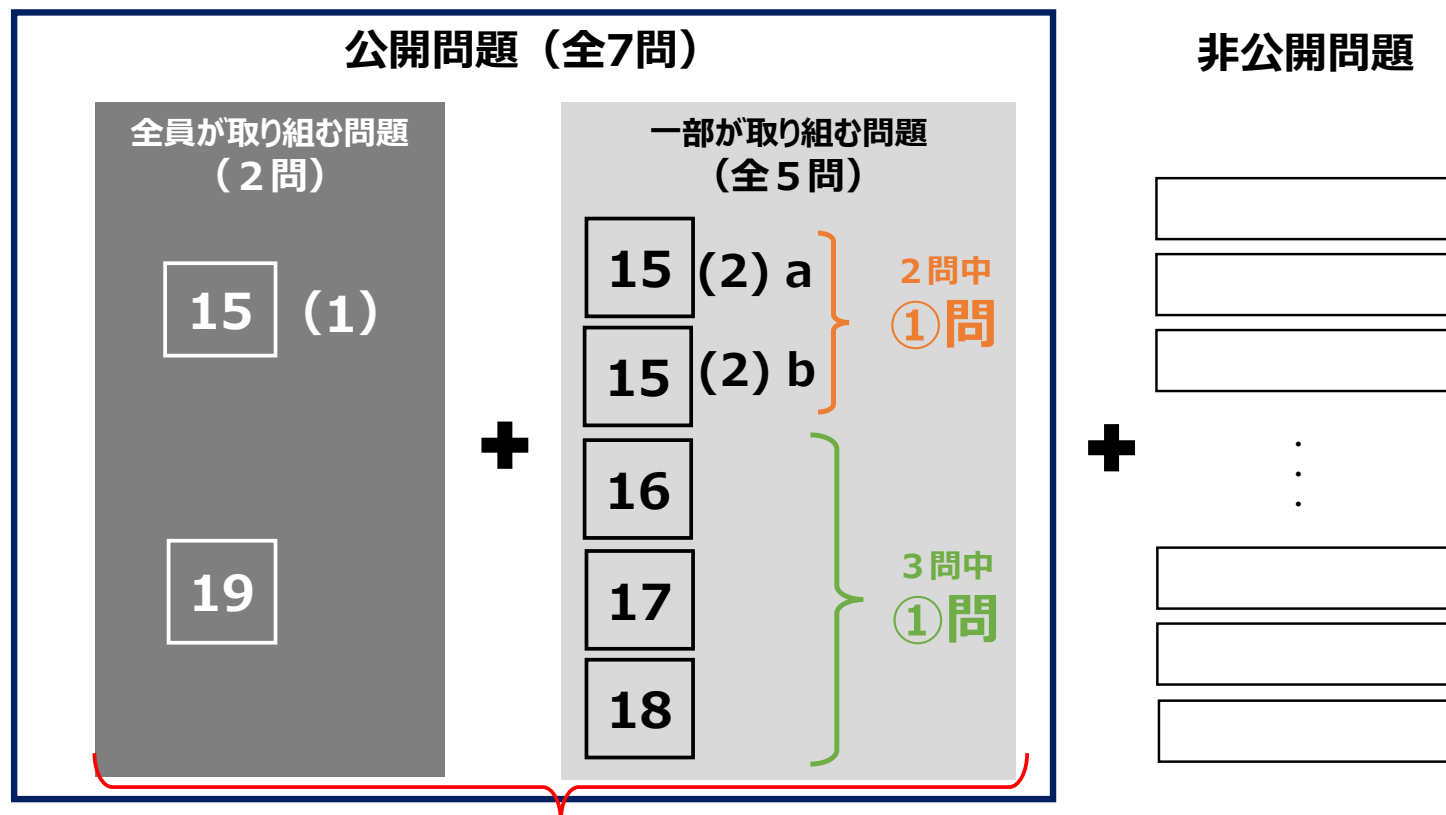
計

⑫問

「話すこと」の構成

下の 15 ～ 19 は、調査問題の番号に相当

※ 出題順序は下記のとおりではない。



生徒一人が解く問題数

公開問題

④問

+

非公開問題

数問

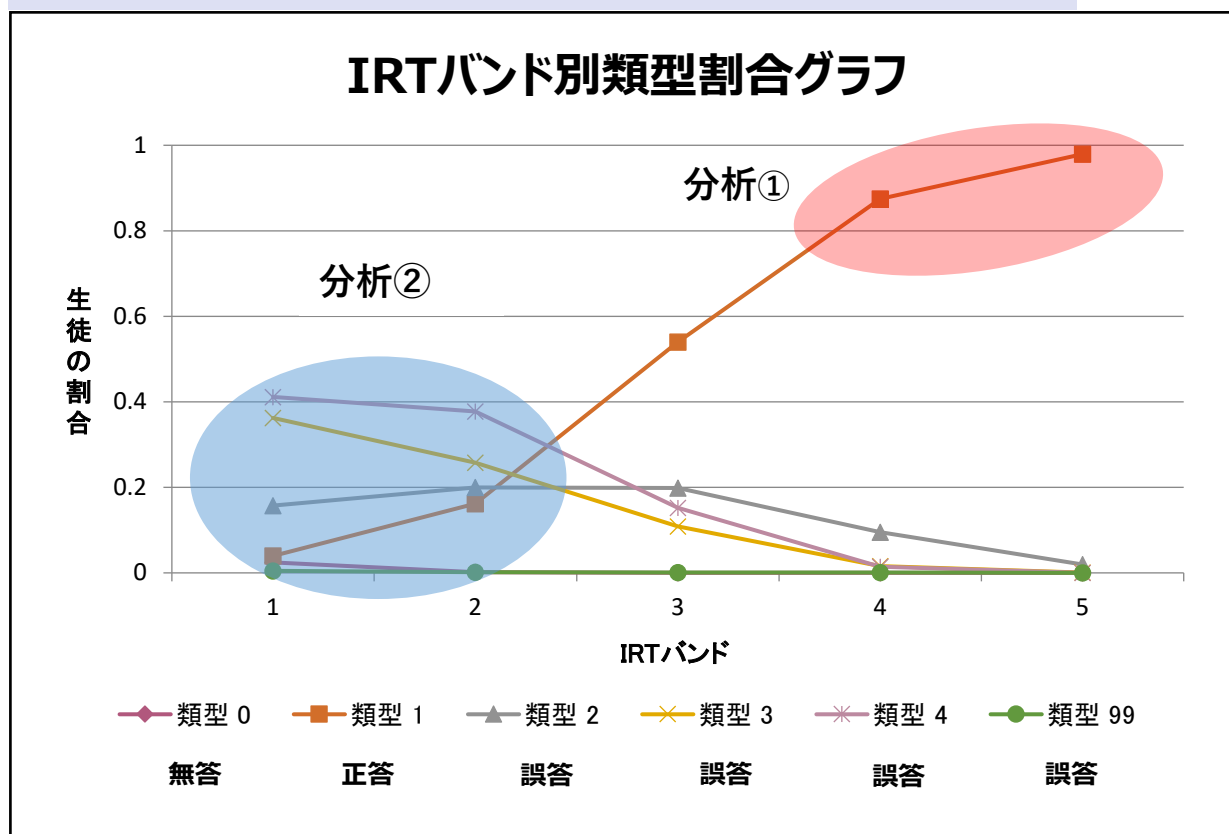
中学校英語については、公開問題・非公開問題の出題の目的を踏まえ、公開問題の分析結果のみを示す

IRTに基づく
分析の結果

- 中学校英語ではIRT（Item Response Theory：項目反応理論）を活用して分析している。
- IRTバンドごとに解答状況に特徴が見られた問題については、「IRTバンド別類型割合グラフ」を用いて、IRTバンドごとに見られた特徴や、その特徴を踏まえた指導改善のポイントを示している。
- 「教育委員会や学校におけるIRTバンドの分布」と、「IRTバンド別類型割合グラフから読み取れるバンドの特徴や傾向」とを照らし合わせながら、学習指導の更なる充実に向けて活用されることが期待される。

※全国学力・学習状況調査結果に基づく「IRTバンド別類型割合グラフ（IRTバンドに基づいたG-P分析図）」では、横軸は受検者の学力レベル（5段階のIRTバンド）を表し、縦軸はIRTバンドごとの各解答類型に属する生徒の割合を表しています。

全国学力・学習状況調査結果に基づくIRTバンド別類型割合グラフの例



分析①

IRTバンド4に属する生徒の約9割、
IRTバンド5に属する生徒は約10割
が正答している。

IRTバンドが高いほど正答する生徒の割合が増えており、IRTバンド4以上に属する生徒はおおむねこの問題を通して測っている資質・能力を身に付けていると判断することができる。

分析②

IRTバンド1、2に属する生徒は、
正答する生徒の割合が2割に満たず、
一定の生徒が類型2、3、4と誤答
している。

誤答の類型2、3、4の内容を分析することで、IRTバンド1、2に属する生徒の課題を把握し、特に留意して指導すべき事柄がわかる。

結果のポイント

①

日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることはできている。

具体的な設問例

3

学校見学についての説明を聞き、行くべき場所を選択する。

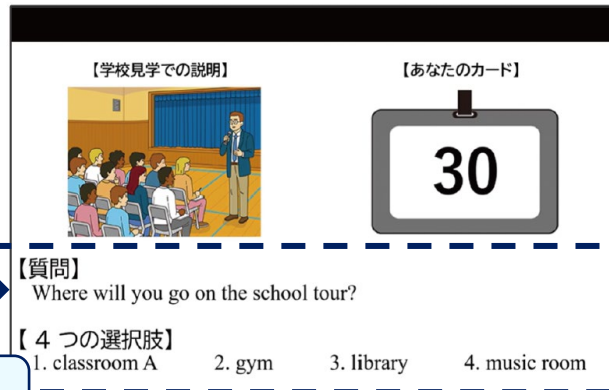
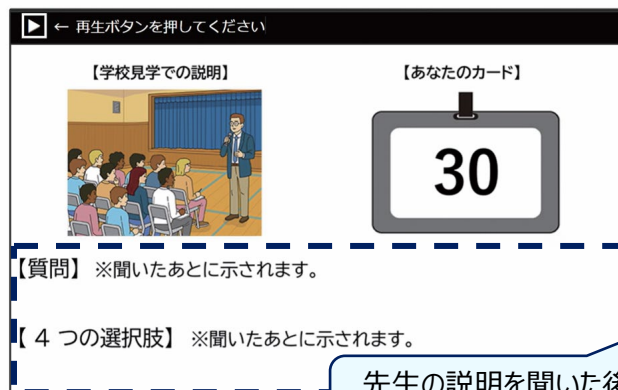
3

<問題文>

あなたは、留学先で学校見学に参加し、体育館で先生の説明を聞くところです。【あなたのカード】の番号は「30」です。先生の説明を聞いたあと、【質問】が流れます。そのあと【4つの選択肢】が示されます。質問の答えとして最も適切なものを、<解答欄>の1から4までの中から1つ選びなさい。必要に応じてメモを取ってもかまいません。

【画面1】

【画面2】



先生の説明を聞いた後に画面が遷移し、質問と選択肢が示される

英語の音声スクリプト【画面1】

Thank you for joining our school tour. Please look at the number on your card. I will tell you the place to go and the thing to do.
 Number 1 to number 10, please stay in the gym. You will watch a movie about school life.
 Number 11 to number 20, please go to classroom A. You will experience a math class.
 Number 21 to number 30, please go to the music room. You will listen to the school song.
 Number 31 to number 40, please go to the library. You will talk with our students.
 Enjoy your tour!

英語の音声スクリプト【画面2】

Question: Where will you go on the school tour?

解答の分析

無解答率0.1%

正答 4

〔 正答率 76.3% 〕

解答類型	反応率 (%)
1	5.0
2	5.0
3	13.5
4 (正答)	76.3
無解答	0.1

誤答した生徒は、「学校見学の説明を聞く場面で、自分のカードの番号は『30』である」という自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることに課題があると考えられる。

誤答の3を選択した生徒の中には、“No.31 (thirty-one)”と“No.30 (thirty)”を誤って捉えている生徒がいると考えられる。

誕生日パーティーに関するメールを読み、最も適切な時刻を選択する。

7

あなたは、友達の名ナナ(Nana)の誕生日パーティーのために料理をするのを手伝います。主催者のジェーン(Jane)からの【メール】を読み、あなたがジェーンの家に行く時刻を、＜解答欄＞の1から4までの中から1つ選びなさい。

【メール】

About Nana's Birthday Party	
Date:	April 20
From:	Jane
Hi, friends, This is Jane. Here's some information about Nana's birthday party. Date: Saturday, April 25 Time: The party starts at 11:30 a.m. Please don't arrive before 11:15 a.m., because we will set up for the party. Place: My house If you can help, please read the information below. Please come at 10:00 a.m. to cook for the party. Please come at 10:30 a.m. to prepare the games. I hope Nana will have a good time with everyone. Your best friend, Jane	

<解答欄>

- ☐ 1 10:00 a.m.
☐ 2 10:30 a.m.
☐ 3 11:15 a.m.
☐ 4 11:30 a.m.

解答の分析

無解答率0.1%

正答 1 $\left[\text{正答率 } 72.8\% \right]$

解答類型	反応率 (%)
1 (正答)	72.8
2	7.7
3	12.8
4	6.7
無解答	0.1

誤答の3を選択した生徒は、“Please don’t arrive before 11:15 a.m. because we will set up for the party.”が自分にとって必要な情報であると判断していると考えられる。“Please don’t arrive before 11:15 a.m., because we will set up for the party.”の文の意味が理解できていなかったり、“If you can help, please read the information below. Please come at 10:00 a.m. to cook for the party.”を読み飛ばしてしまったりしている可能性が考えられる。

結果のポイント

③

社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉えることに課題がある。

具体的な設問例

10 (1)

インターネットの使用に関する文章を読み、書き手が最も伝えたいことを選択する。

10

中学生のまいこ(Maiko)が英語の授業でインターネットの使用に関する文章を書きました。次の(1)と(2)の問いに答えなさい。

(1) 【まいこが書いた文章】を読み、まいこが最も伝えたいことを、＜解答欄＞の1から4までの中から1つ選びなさい。

【まいこが書いた文章】

Today, many junior high school students use the internet to play games. However, I think we should use the internet for learning more often because it is useful. For example, there are many good videos for learning English. They are easy to understand. Also, there are many good dictionaries on the internet. We can find the meaning of an English word quickly.

Do you think my opinion is good?

＜解答欄＞

- 1 Many junior high school students use the internet to play games.
- 2 Junior high school students should use the internet for learning more often.
- 3 There are many good videos for learning English.
- 4 We can find the meaning of an English word quickly.

解答の分析

無解答率0.2%

正答 2 [正答率 48.1%]

解答類型	反応率 (%)
1	8.6
2 (正答)	48.1
3	19.1
4	23.9
無解答	0.2

【文章の解説】

中学生の現状を示している（選択肢1）

Today, many junior high school students use the internet to play games. However, I think we should use the internet for learning more often because it is useful. For example, there are many good videos for learning English. They are easy to understand. Also, there are many good dictionaries on the internet. We can find the meaning of an English word quickly.

Do you think my opinion is good?

まいこが最も伝えたいことを示している（選択肢2）

インターネットの使用が学習に役立つ1つ目の具体例を示している（選択肢3）

インターネットの使用が学習に役立つ2つ目の具体例を示している（選択肢4）

誤答の3、4を選択した生徒は、インターネットの使用が学習に役立つ**具体例を、まいこが最も伝えたいことであると誤って捉えている**と考えられる。また、4を選択した生徒は、英文が“We can find..”と助動詞を用いていることや、文章全体の最後に選択肢4の英文が書かれていることから、書き手が最も伝えたいことだと誤って捉えた可能性も考えられる。

結果のポイント

③

社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉えることに課題がある。

具体的な設問例
10 (1)

インターネットの使用に関する文章を読み、書き手が最も伝えたいことを選択する。

分析①

IRTバンド 1 に属する生徒の約 4 割、IRTバンド 2 に属する生徒の約 3 割が誤答の 3 を選択している。
IRTバンド 1、2 それぞれに属する生徒の 2 割以上が誤答の 4 を、1 割以上が誤答の 1 を選択している。

IRTバンド 1、2 に属する生徒の多くが「具体例」や「現状」を書き手が最も伝えたいことと誤って捉えている。
英語で書かれた文章（意見文）には、「書き手が最も伝えたいこと」と、それを支える理由として具体例が書かれているという文章の構成があることを理解させることが考えられる。

分析②

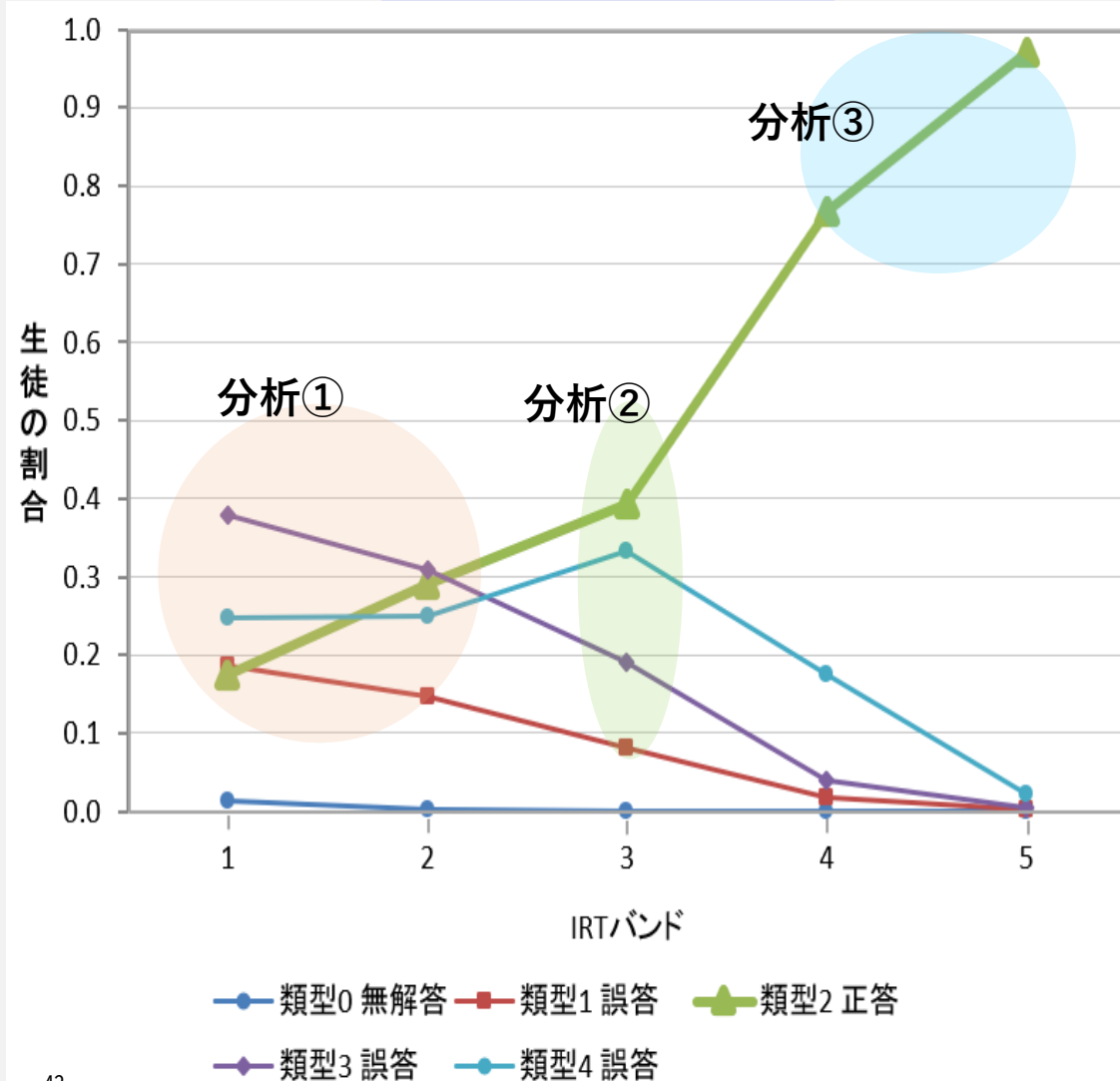
IRTバンド 3 に属する生徒は、IRTバンド 1、2 に属する生徒と比較すると 1 や 3 と誤答する割合は低くなっているが、3 割以上が誤答の 4 を選択している。

書き手が最も伝えたいこととその具体例という文と文の関係を捉えることができていないと考えられる。
“I think...”や“We should...”などの考えを伝える表現や“For example”などの具体例を表す表現に着目させて文と文との関係を捉えるようにすることが大切である。

分析③

IRTバンド 4 に属する生徒の 7 割以上、IRTバンド 5 に属する生徒の 9 割以上が、正答である 2 を選択している。

G-P 分析図



結果のポイント

④

社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことに課題がある。

具体的な設問例

10(2)

インターネットの使用に関して読んだことについて、考えとその理由を書く。

10

中学生のまいこ(Maiko)が英語の授業でインターネットの使用に関する文章を書きました。次の(1)と(2)の問いに答えなさい。

(2) まいこの質問に対する「あなたの考え」と「なぜそう考えるのか」を、英語で書きなさい。【まいこが書いた文章】にある表現を使って書いてもかまいません。

【まいこが書いた文章】

Today, many junior high school students use the internet to play games. However, I think we should use the internet for learning more often because it is useful. For example, there are many good videos for learning English. They are easy to understand. Also, there are many good dictionaries on the internet. We can find the meaning of an English word quickly.

Do you think my opinion is good?

<解答欄> ※半角で入力してください

Do you think my opinion is good?

あなたの考え

なぜそう考えるのか

解答の分析

無解答率14.4%

正答の
条件・
正答例〔
正答率
28.4%〕

条件①:

書き手の意見に対する自分の考えを書いている。

条件②:

①の理由を書いている。

・ I agree with you.
I often use the internet to study English.

解答類型3に該当する生徒は、自分の考え(条件①)を書くことはできているが、理由(条件②)を書くことができていない。

解答類型3の誤答例

- ・ I think your opinion is good. I think students will find is very good. (文構造の誤り)
- ・ I agree with you. I think paper dictionaries is more useful than internet. (内容の矛盾)

解答類型7に該当する生徒は、自分の考え(条件①)とその理由(条件②)を書くことができていない。書く内容が思い浮かばなかったか、書く内容は思い浮かんだが、自分の考えとその理由を書くために必要な表現が身に付いていないと考えられる。

解答類型7の誤答例

- ・ I think should use to study good.

解答類型		反応率 (%)
1 (正答)	条件①、条件②を満たして解答している	22.8
2 (正答)	文法事項などに誤りがあるが、条件①、条件②を満たして解答している	5.5
3	条件①を満たし、条件②を満たさずに解答している	35.4
4	条件①を満たして解答しているが、条件②に関わる記述がない	8.2
5	条件①を満たしていないが、条件②を満たしている	2.0
6	条件①に関わる記述はないが、条件②を満たしている	0.2
7	条件①、条件②を満たさない	9.6
99	上記以外の解答(日本語など)	2.0
0	無解答	14.4

結果のポイント

④

社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことに課題がある。

具体的な設問例

10 (2)

インターネットの使用に関して読んだことについて、考えとその理由を書く。

分析①

IRTバンド 1 に属する生徒の約 4 割、IRTバンド 2 に属する生徒の約 3 割が無解答である。

分析②

IRTバンド 1、2 に属する生徒の約 2 割が、誤答である解答類型 7 に分類されている。

誤答や無解答の要因として、文章の内容が読み取れたのか、書くべき内容が分からなかったのか、英語の表現が分からなかったのか、生徒の課題がどこにあるのかを見取り、それぞれに応じた指導を行うことが大切である。

指導に当たっては、書かれている文章の内容と問われていることを確認した上で、書き手の意見に対して考えたことをペアでやり取りさせるなどして書き手の意見に賛成か反対かなどの立場を明確にさせ、それを「自分の考え」として書くことから指導していくことが考えられる。

分析③

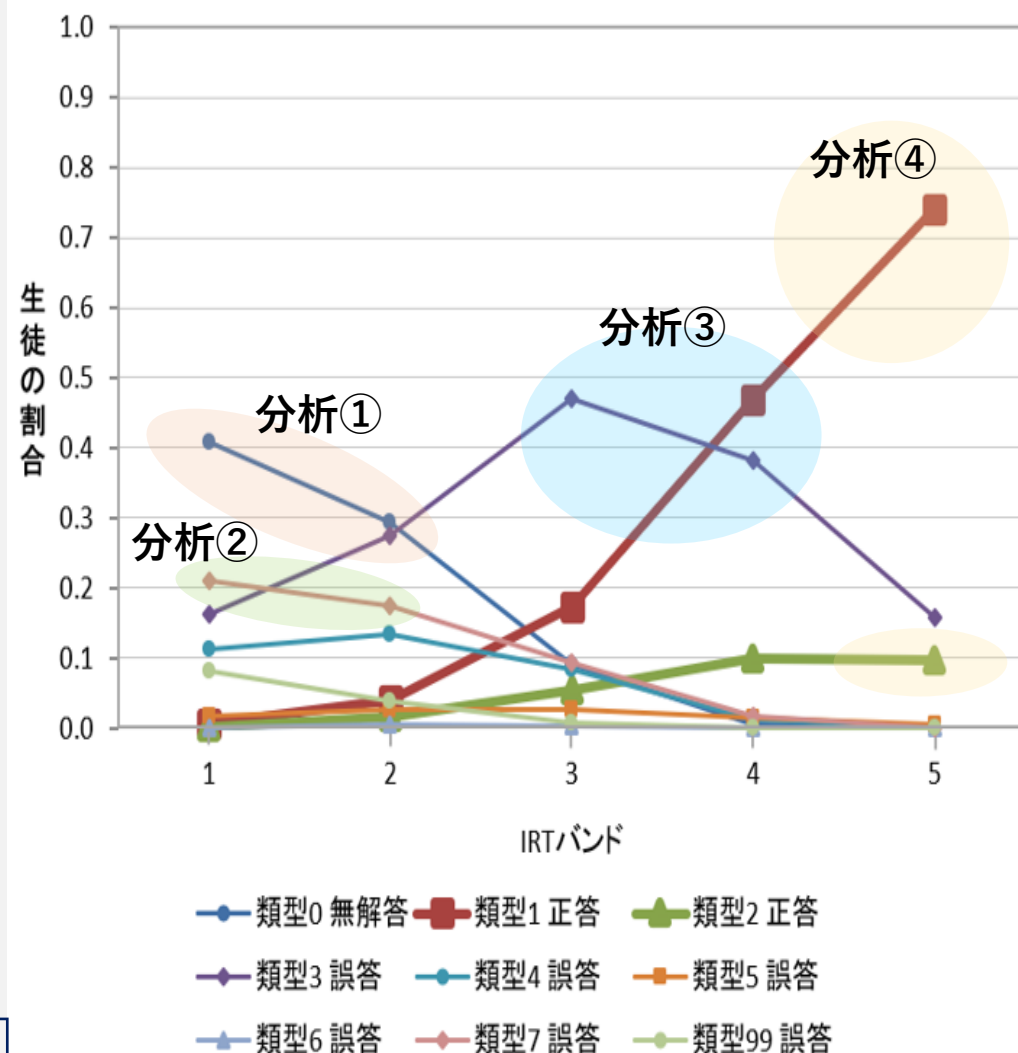
IRTバンド 3 に属する生徒の 4 割以上、IRTバンド 4 に属する生徒の約 4 割が、誤答である解答類型 3 に分類されている。

このような生徒は、自分の考えを支える理由を書くことに課題があると考えられる。指導に当たっては、読み手に伝わる表現で理由を書くことができるように生徒同士でコメントさせ合ったり、教師からのフィードバックを与えて表現を考えさせたりすることが考えられる。

分析④

IRTバンド 5 に属する生徒の 8 割以上が正答している。

G-P 分析図



結果のポイント

⑤

音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して書くことに課題がある。

具体的な設問例

11 ①②

与えられた情報に基づいて、留学生の昨日の出来事を説明する英文を書く。

11

留学生のメイ(Mei)に**昨日の出来事**について質問し、分かったことを下の【表】にまとめました。【表】を見て、例を参考にしながら、①メイが行った場所、②メイがしたことを、それぞれ英文1文で書きなさい。

【表】

例	メイが起きた時刻	7時(seven)
①	メイが行った場所	公園(the park)
②	メイがしたこと	テニス(tennis)

<解答欄> ※半角で入力してください

例	Mei got up at seven.
①	
②	

【正答例】

① Mei **went** to the park.

①は不規則動詞、②は規則動詞の過去形を理解し、その知識を活用して書くことが求められる

【正答例】

② Mei **played** tennis.

無解答率

①2.5% ②2.9%

解答の分析

〔正答率 ① 59.4% ② 53.3%〕

誤答例の解説

- 現在形や現在進行形、完了形などを用いて解答しているもの・・・① 18.8 % ② 14.8%

上記の生徒は、正しい語順で書くことはできているが、与えられた状況について、**過去のことについて書くことを理解できていない**。あるいは、**goの過去形がwentであることや、playの過去形がplayedであることを理解できていない**生徒がいることが考えられる。

①の誤答例

・ Mei **go** to the park. ・ Mei **is going to** the park.

②の誤答例

・ Mei **play** tennis. ・ Mei **will play** tennis.



中学校英語指導事例集（令和7年3月）

「言語の働きを理解し、場面や状況に応じて表現を使い分ける」指導資料参照

<https://www.youtube.com/watch?v=R8wbXpyP2ZM&list=PLGpGsGZ3lmbCFgwUUrqs29s8ajEQ1kIM&index=5>


結果のポイント

⑥

日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことに課題がある。

具体的な設問例

12

中学生になってからの思い出を1つ取り上げ、そこで体験したこととその感想を書く。

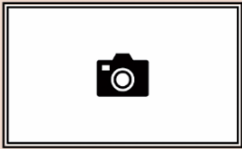
12

あなたは、中学生になってからの思い出(My Memory)を【英語新聞】にまとめることになりました。思い出を1つ取り上げ、「そこであなたが体験したこと」と「感想」を、15語以上30語以内の英語で書きなさい。なお、思い出は下の【例】を参考にしてもかまいません。

【英語新聞】

My Memory

※ここには、あなたの思い出の
写真が入ります。



Below the photo placeholder is a large empty rectangular box for writing the memory description.

【例】

- 学校行事
 - 文化祭(the school festival)
 - 体育祭(the sports festival)
 - 音楽祭(the music festival)
 - 修学旅行(the school trip)
 - 職場体験(the work experience)
- 授業
- 習い事
- 趣味
- 日常の出来事
- その他

解答の分析

無解答率8.6%

正答の条件

正答例

正答率
48.0%

条件①：
15語以上30語以内の英語
で書いている。

条件②：
中学校の思い出を1つ取り
上げ、そこで体験したことを
書いている。

条件③：
条件②の感想を書いている。

• I enjoyed the school
trip in June. I went to
Okinawa. I saw the
beautiful ocean. It was
great.

誤答例の解説

●条件①、条件②を満たし、条件③を満たさないで
解答しているもの(解答類型3)・・・11.2%

●条件①、条件③を満たし、条件②を満たさないで
解答しているもの(解答類型4)・・・3.7%

●条件①を満たし、条件②、条件③を満たさないで
解答しているもの(解答類型5)・・・3.0%

解答類型3に該当する生徒は、中学校での思い出を1つ取り上げ、そこで体験したこと(条件②)を書いているが、その感想(条件③)を書くことはできていない。

解答類型3の誤答例

• My memory is the music festival. We sang a song. I was win the game in my class.
(文構造の誤り)

結果のポイント

⑥

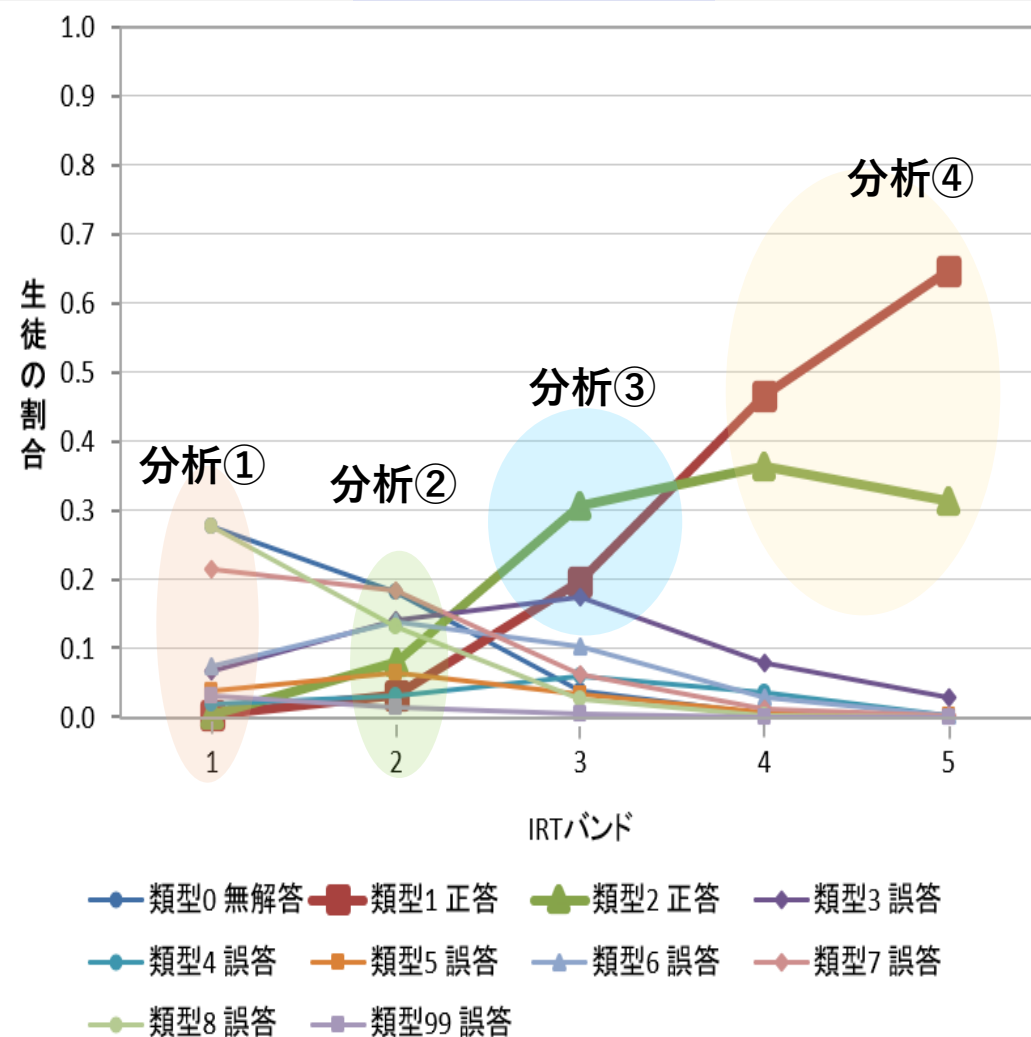
日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある文章を書くことに課題がある。

具体的な設問例

12

中学生になってからの思い出を1つ取り上げ、そこで体験したこととその感想を書く。

G-P分析図



分析① IRTバンド1に属する生徒の約3割が無解答、5割以上が誤答である解答類型6、7、8に分類されており、合計で約8割の生徒が15語以上の英語で書くことができていない。

分析② IRTバンド2に属する生徒の約2割が無解答、4割以上が誤答である解答類型6、7、8に分類されており、合計で約6割の生徒が15語以上で書くことができていない。

書く内容が思い浮かばなかった、書く内容は思い浮かんだが、英語の表現が思い浮かばなかったなどの可能性が考えられる。指導に当たっては、短い文章を読む活動を充実させ、読んだ文章から参考になりそうな内容や表現を選んで書かせたり、書く前にテーマについて事実や自分の考え、気持ちなどを整理させたりすることが考えられる。

分析③ IRTバンド3に属する生徒の約5割が正答である解答類型1、2、約2割が誤答である解答類型3に分類されている。

約2割が誤答の解答類型3に分類されていることを踏まえ、そのような生徒は体験したことを書くことはできているが、その感想については感想と捉えることができない内容が書かれていたり、コミュニケーションに支障をきたす誤りが見られたりすることに留意した指導が必要である。指導に当たっては、文と文とのつながりなどに注意し、代名詞や接続詞を正しく用いて、読み手に伝わる表現で感想を書かせることが考えられる。

分析④ IRTバンド4に属する生徒の8割以上、およびIRTバンド5に属する生徒の9割以上が正答である解答類型1、2に分類されている。

結果のポイント

⑦

未来表現 (will) などの知識を活用して話すことに課題がある。

具体的な設問例

15 (1)

電話でのやり取りの中で、遊ぶ約束をしている留学生に明日の天気を伝える。

15

<問題文>

この問題は(1)と(2)の2問あります。この問題では、話す準備をする時間はありません。動画に出てくる吹き出しはあなたが伝えたいことを表しています。

あなたは、明日、留学生のサラと遊ぶ予定です。これから明日の天気予報を確認して、明日のことについてサラと電話で話ところです。

(1) 吹き出しの中に示されているイラストを見て、サラに明日の天気を英語で伝えましょう。【解答時間 15 秒】



あなた



サラ

解答の分析

無解答率9.2%

正答例

〔 正答率 42.3% 〕

・ It will be rainy tomorrow.

誤答例の解説

- 明日の天気について解答しているが、文法事項などに誤りがあるもの・・・16.4 %

上記に該当する生徒は、rain と tomorrow を用いることはできているが、文法事項などに誤りが見られた。

(誤答例)

- ・ It will __ rainy tomorrow. (be動詞抜け)
- ・ Rainy is tomorrow. (文構造の誤り)

- 与えられた情報について解答していないもの
・・・24.8 %

上記に該当する生徒は、rain と tomorrow の両方を用いることができておらず、音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して話すことに課題があると考えられる。

(誤答例)

- ・ Will rain. ・ I like rain.
- ・ Yesterday is rainy.

👉「令和8年度【中学校英語】報告書」授業アイデア例4参照

https://www.nier.go.jp/26chousakekkahoukoku/report/data/26meng_idea_15.pdf#page=10

結果のポイント

⑧

日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことに課題がある。

具体的な設問例

16

留学生と一緒にしたいことを1つ取り上げ、その理由を話す。

16

<問題文>

あなたは、留学生のミン(Ming)と仲良くなるために、一緒にしたいことをクラスの友達と発表し合っています。次はあなたが発表する番です。「ミンと一緒にしたいことを1つ取り上げ」、「なぜそれをしたいのか」を、英語で話しましょう。動画内の【例】を参考にしてもかまいません。【考える時間 1分 解答時間 30秒】



解答類型3に該当する生徒は、留学生のミンと一緒にしたいこと（条件①）を話すことはできているが、その理由（条件②）を話すことはできていない。

誤答例

- I want to play *Karuta* with Ming because it can learn Japanese culture and it is very enjoy. (文構造の誤り)
- I want to play tennis or soccer because I want to sing singing. (内容の矛盾)

-49-

解答の分析

無解答率11.3%

正答の条件

正答例

正答率
53.5%

条件①：

留学生のミンと一緒にしたいことを1つ取り上げて話している。

条件②：

①の理由を話している。

- I want to play tennis with Ming because it is fun for me to play tennis.

解答類型		反応率 (%)
1 (正答)	条件①、条件②を満たして解答している	36.6
2 (正答)	文法事項などに誤りがあるが、条件①、条件②を満たして解答している	16.9
3	条件①を満たし、条件②を満たさないで解答している	10.9
4	条件①を満たして解答しているが、条件②に関する発話がない	5.9
5	条件①を満たしていないが、条件②を満たしている	6.9
6	条件①に関する発話はないが、条件②を満たしている	0.4
7	条件①、条件②を満たさない	9.8
99	上記以外の解答（日本語など）	1.2
0	無解答	11.3

結果のポイント

⑧

日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、まとまりのある内容を話すことに課題がある。

具体的な設問例

16

留学生と一緒にしたいことを1つ取り上げ、その理由を話す。

分析①

IRTバンド1に属する生徒の3割以上、IRTバンド2に属する生徒の2割以上が無解答である。

分析②

IRTバンド1に属する生徒の2割以上、IRTバンド2に属する生徒の約2割が、誤答である解答類型7に分類されている。

留学生と一緒にしたいこととその理由を話すことに課題がある。指導に当たっては、「話すこと[やり取り]」を繰り返し、**まずは1、2文で話すことから始め、徐々に3、4文とまとまりのある内容を話すことにつなげていくことが考えられる。**

分析③

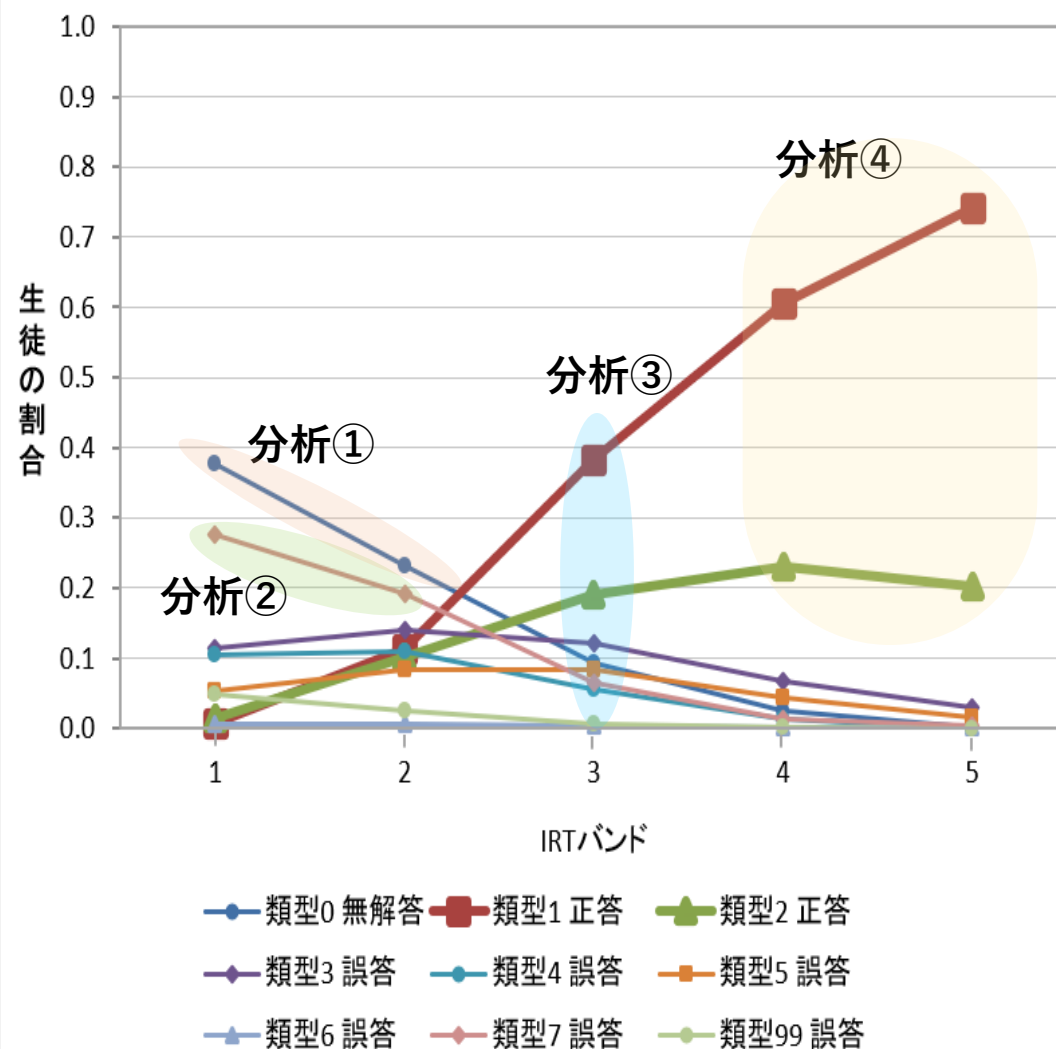
IRTバンド3に属する生徒の約6割が正答している。また、1割以上が誤答である解答類型3に分類されている。

1割以上が誤答の解答類型3に分類されていることを踏まえ、そのような生徒は理由を話しているが、コミュニケーションに支障をきたす誤りが見られていることに留意した指導が必要である。指導に当たっては、**簡単な「話すこと[発表]」の活動を繰り返す中で、聞き手に伝わる表現を用いて話すように指導することが考えられる。**

分析④

IRTバンド4に属する生徒の8割以上、IRTバンド5に属する生徒の9割以上が正答している。

G-P分析図



結果のポイント

⑨

社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことに課題がある。

具体的な設問例

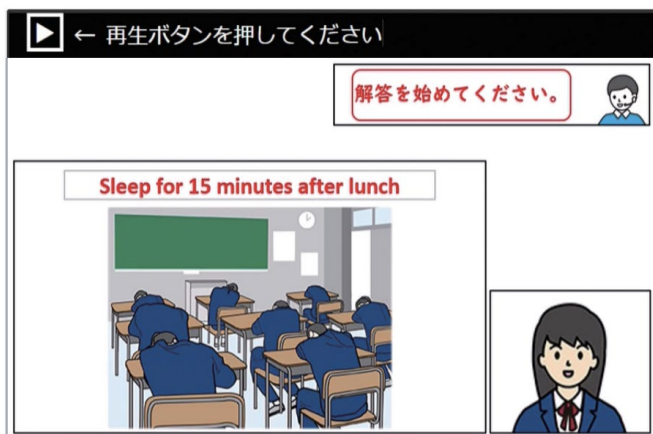
19

学校生活をよりよくする方法に関して聞いたことについて、考えとその理由を話す。

19

<問題文>

あなたは、英語の授業で、オンライン交流をしている中学生のかおりと「学校生活をよりよくする方法」について話し合っています。発表を聞き、かおりの意見に対する「あなたの考え」と「なぜそう考えるのか」を、英語で答えましょう。【考える時間 1分 解答時間 30秒】



解答の分析

無解答率17.0%

正答の条件
・
正答例

正答率
25.8%

条件①:

話し手の意見に対する自分の考えを話している。

条件②:

①の理由を話している。

・ Your idea is good because I often become sleepy after lunch.

解答類型		反応率 (%)
1 (正答)	条件①、条件②を満たして解答している	17.5
2 (正答)	文法事項などに誤りがあるが、条件①、条件②を満たして解答している	8.4
3	条件①を満たし、条件②を満たさないで解答している	23.6
7	条件①、条件②を満たさない	22.0
0	無解答	17.0

解答類型3に該当する生徒は、自分の考え（条件①）を話すことはできているが、その理由（条件②）を話すことができていない。

解答類型3の誤答例

- ・ Kaori's idea is very good because student should not sleep in the school. (内容の矛盾)
- ・ I agree with your idea. We should sleep for 15 minutes after lunch. (主張の繰り返し)

解答類型7に該当する生徒は、自分の考え（条件①）を話すことと、その理由（条件②）を話すことの両方ができていない。

解答類型7の誤答例

- ・ I think sleep for 15 minutes after lunch because we are like after lunch.

中学校英語指導事例集（令和7年3月）

「聞いたことを基に自分の考えや理由を話す」指導資料参照

<https://www.youtube.com/watch?v=n3oLMuDFKQw&list=PLGpGsGZ3lmbCFgwUUrqs29s8ajEQ1kIM&index=6>



結果のポイント

⑨

社会的な話題に関して聞いたことについて、考えとその理由を話すことに課題がある。

具体的な設問例

19

学校生活をよりよくする方法に関して聞いたことについて、考えとその理由を話す。

分析① IRTバンド 1 に属する生徒の 4 割以上、IRTバンド 2 に属する生徒の 3 割以上が無解答である。

分析② IRTバンド 1、2 それぞれに属する生徒の 3 割以上が誤答である解答類型 7 に分類されている。

学校生活をよりよくする方法に関して聞いたことについて、考えとその理由を話す際に、知識を活用して話すことに課題があると考えられる。

誤答や無解答の要因として、話している内容が理解できたのか、話すべき内容が思い浮かばなかったのか、英語の表現が分からなかったのか、生徒の課題がどこにあるのかを見取り、生徒の学習状況に応じた指導を行うことが大切である。

指導に当たっては、話し手が最も伝えたいことを確認した上で、**賛成か反対かなどの立場を明確にさせ、それを「自分の考え」として話すことから指導をしていくことが考えられる。**

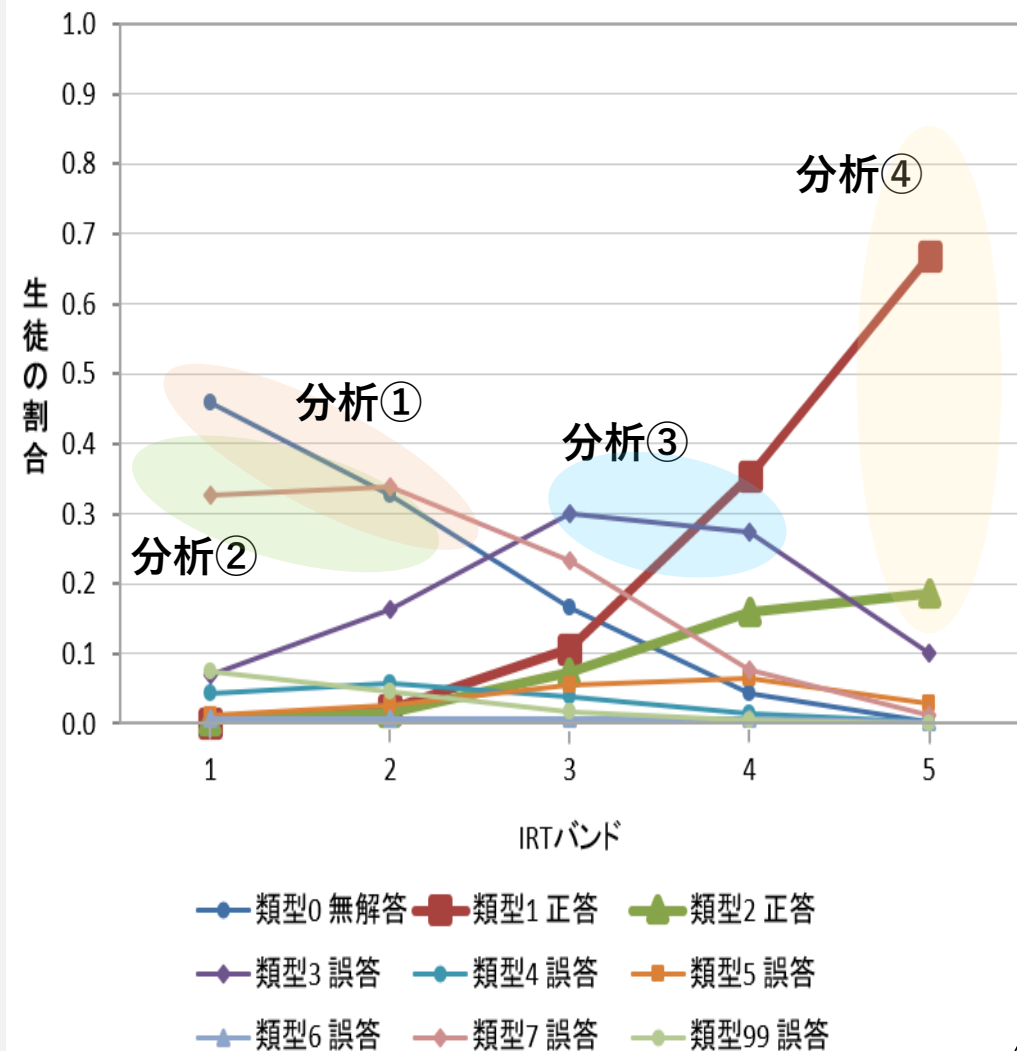
分析③ IRTバンド 3、4 それぞれに属する生徒の約 3 割が、誤答である解答類型 3 に分類されている。

学校生活をよりよくする方法に関して聞いたことについて、自分の考えを話すことができているが、その理由を話すことに課題があると考えられる。**指導に当たっては、表現の仕方が分からなかったり、表現に誤りがあったりする場合、どのような表現がよりよいか学級全体で共有したり、言語材料について理解し、練習するための指導を行ったりすることが大切である。**

分析④ IRTバンド 5 に属する生徒の 8 割以上が、正答している。

-52-

G-P 分析図



今回の調査結果を踏まえた 指導改善のポイント

聞くこと

○ 話を聞いて、概要を捉える指導の充実

話題を把握した上で、特定の部分にのみとらわれることなく、全体としてどのような話のあらましになっているのかを捉えることが重要である。指導に当たっては、話の最初から最後まで通して聞き、聞き取った情報や、情報と情報との関係、展開を表す表現などから場面の移り変わりを整理させることが大切である。その後、話を聞き、どのように場面の移り変わりを整理したのかをペアやグループで伝え合ったり、学級全体で確認したりすることが考えられる。

読むこと

○ 文章を読んで、要点を捉える指導の充実

文章全体を通して読み、文章から取り出した複数の情報を比較することで、どの情報が最も重要であるかを判断することが重要である。指導に当たっては、文と文との関係を捉え、段落内の情報と情報との関係、段落と段落の関係などの文章全体の構成を理解することが大切である。また、文章を読んだ後で、書き手が最も伝えたいことは何か、なぜそう考えたのかを話し合う活動なども考えられる。

書くこと

○ 社会的な話題に関して読んだことについて、考えと理由を書く指導の充実

文章を読み、書き手が最も伝えたいことを捉え、それについて感じたことや考えたことを、理由とともに書くことが重要である。指導に当たっては、文章を読んで要点を捉え、自分の考えとその理由をキーワードとしてメモなどに整理させた後、自分の考えとその理由を書くことが考えられる。簡単な「書くこと」の活動を繰り返すことも有効である。その際、書き手の意見に対する賛否とその理由などを話した後に、話した内容を1～2文程度で書かせることが考えられる。また、書いた文章に対して生徒同士でコメントさせたり、教師がフィードバックを与えたりすることで文章を推敲することも大切である。

**話すこと
[やり取り]****○ 事実や自分の考えなどを即興で伝え合う指導の充実**

「即興で伝え合う」とは、話すための原稿を事前に用意してその内容を覚えたり、話せるように練習したりするなどの準備時間を取ることなく、不適切な間を置かずに相手と事実や意見、気持ちなどを伝え合うことである。指導に当たっては、ペアでやり取りを行った後、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じてやり取りをするための視点や必要な表現を共有し、相手を変えて再度やり取りを行うなど、やり取りを繰り返し行うことが大切である。

**話すこと
[発表]****○ 事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある内容を話す指導の充実**

聞き手に伝わるように、1つのテーマに沿った発表をしたり、内容に一貫性があるスピーチをしたりするなどまとまりのある内容を話すことが重要である。指導に当たっては、「話すこと [やり取り]」の活動を充実させ、まとまりのある内容を話すことにつなげることが大切である。また、メモを活用せずに、簡単な「話すこと[発表]」の活動を繰り返し行い、徐々に発話する量を増やしていくことが大切である。4文、5文と話す内容が増えてくると、話す内容や構成を整理する必要があるため、その段階でキーワードなどをメモに書かせることが考えられる。

**知識
及び
技能****○ 音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を活用して、聞く、読む、話す、書く技能を身に付ける指導の充実**

音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどを理解するだけでなく、これらの知識を実際のコミュニケーションにおいて活用できるようにすることが重要である。指導に当たっては、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを意識し、実際に英語を用いた言語活動を行い、言語材料について理解したり練習したりするための指導を必要に応じて行うことが大切である。また、既習事項を繰り返し活用したり、既習事項と新出事項とを比較して関連する文法事項を整理したりすることも大切である。